

京都大学英語講義一覧(学部)

京都大学では様々な学部・学科・部局にて多くの英語講義を提供しています。今後ますますグローバル化が進み、あらゆる分野で英語の運用能力が問われる時代になります。自分の興味のある授業を見つけて、積極的に参加し、英語力を向上させましょう。KUINEP以外の学部で提供されている英語講義を受講する際は、担当教員や担当学部窓口に履修可能かを伺ってから、履修・受講してください。

開講期	開講曜時限	科目名	担当教授所属先	担当教授名	提供部局
前期	月1	英語講義:日本の社会と文化I	文学研究科	RAJKAI Zsombor Tibor	KUINEP
前期	月2	英語講義:開発経済学II	国際交流センター	森 純一	KUINEP
前期	月3	英語講義:現代物理学	国際交流センター	青谷 正妥	KUINEP
前期	火1	英語講義:教育・文化・人間の一生	教育学研究科	岩井 八郎ほか	KUINEP
前期	火2	英語講義:教育調査方法II	国際交流センター	河合 淳子	KUINEP
前期	火3	英語講義:国際通貨論II	非常勤講師	村瀬 哲司	KUINEP
前期	水2	英語講義:日本の経済と経営	経済研究科	渡辺 純子ほか	KUINEP
前期	水3	英語講義:日本の情報文化と社会	産官学連携本部	麻生川 静男	KUINEP
前期	木1	英語講義:現代日本の大学・大学生論	高等教育研究開発推進センター	溝上 慎一	KUINEP
前期	木2	英語講義:日本の法と政治	法学研究科	島田 幸典ほか	KUINEP
前期	木5	英語講義:経営戦略の基礎II	国際交流センター	長山 浩章	KUINEP
前期	金2	英語講義:日本宗教文化論II	高等教育研究開発推進機構	S. トレンソン	KUINEP
前期	金2	英語講義:ライフ・サイエンスII	生命科学研究科	竹安 邦夫	KUINEP
前期	金3	英語講義:エネルギー・資源II	エネルギー科学研究科	塩路 昌宏ほか	KUINEP
前期	金4	英語講義:生物言語学-言語の生物学的研究	人間・環境学研究科	藤田 耕司	KUINEP
前期	金5	英語講義:日本とアジアの家族I	文学研究科	RAJKAI Zsombor Tibor	KUINEP
後期	月1	英語講義:日本の社会と文化II	文学研究科	RAJKAI Zsombor Tibor	KUINEP
後期	月2	英語講義:開発経済学II	国際交流センター	森 純一	KUINEP
後期	月3	英語講義:応用統計学	国際交流センター	青谷 正妥	KUINEP
後期	火1	英語講義:農業は環境に悪影響を与えるか?	農学研究科	Lee, Philip Wah	KUINEP
後期	火2	英語講義:日本の伝統建築と庭園	理学研究科	鈴木 在乃	KUINEP
後期	火3	英語講義:国際通貨論I	非常勤講師	村瀬 哲司	KUINEP
後期	水1	英語講義:ライフ・サイエンスI	生命科学研究科	竹安 邦夫	KUINEP
後期	水2	英語講義:京大文学の最前線	文学研究科	出口 康夫	KUINEP
後期	水3	英語講義:日本の工芸技術と社会	産官学連携本部	麻生川 静男	KUINEP
後期	木1	英語講義:青年期の自己形成論	高等教育研究開発推進センター	溝上 慎一	KUINEP
後期	木2	英語講義:日本古典文学入門	国際交流センター	河上 志貴子	KUINEP
後期	木5	英語講義:経営戦略の基礎I	国際交流センター	長山 浩章	KUINEP
後期	金1	英語講義:日本の農業と食品	農学研究科	白岩 立彦ほか	KUINEP
後期	金2	英語講義:日本宗教文化論I	高等教育研究開発推進機構	S. トレンソン	KUINEP
後期	金2	英語講義:エネルギー・資源I	エネルギー科学研究科	坂 志朗	KUINEP
後期	金3	英語講義:教育調査方法I	国際交流センター	河合 淳子	KUINEP
後期	金4	英語講義:幸福	非常勤講師	新宮 秀夫	KUINEP
後期	金5	英語講義:日本とアジアの家族II	文学研究科	RAJKAI Zsombor Tibor	KUINEP
前期	月3・4	Calculus A	工学研究科	Mygdalskyy Volodymyr	全学共通科目
前期	火3	Math Description of Natural Phenom	工学研究科	KIM Chul-Woo	全学共通科目
前期	水3	Introduction to Japanese History I	高等教育研究開発推進機構	S. トレンソン	全学共通科目
前期	木2	分子細胞生物学入門(英語講義)	生命科学研究科	竹安 邦夫	全学共通科目
前期	木3	Linear Algebra A	工学研究科	MYGDALSKYY Volodymyr	全学共通科目
前期	木4	Fundamentals of Japanese Culture I	高等教育研究開発推進機構	S. トレンソン	全学共通科目
前期	金2	Introduction of Earth Science IA	工学研究科	FLORES BARRON Gianca	全学共通科目
前期	金2	分子細胞生物学501(英語講義)	生命科学研究科	竹安 邦夫	全学共通科目
前期	金3	Introduction to Japanese Society 1	文学研究科	RAJKAI Zsombor Tibor	全学共通科目
前期	金4	Fundamental Physics A	工学研究科	TAMRAKAR, Surendraほか	全学共通科目
後期	月3・4	Calculus B	工学研究科	Mygdalskyy Volodymyr	全学共通科目
後期	火3	Advanced Dynamics	工学研究科	PUAY How Tion	全学共通科目
後期	水3	Introduction to Japanese History II	高等教育研究開発推進機構	S. トレンソン	全学共通科目
後期	水4	IT時代のヒューマンライフ(国立台湾大学との)	学術情報メディアセンター	喜多 一	全学共通科目
後期	木3	Linear Algebra B	工学研究科	MYGDALSKYY Volodymyr	全学共通科目
後期	木4	Fundamentals of Japanese Culture II	高等教育研究開発推進機構	S. トレンソン	全学共通科目
後期	木5	Renewable Energy for SD	エネルギー理工学研究所	大垣 英明ほか	全学共通科目
後期	金2	分子細胞生物学502(英語講義)	生命科学研究科	吉村 成弘	全学共通科目
後期	金2	Thermodynamics	工学研究科	KHAYYER Abbas	全学共通科目
後期	金3	Introduction to Japanese Society 2	文学研究科	RAJKAI Zsombor Tibor	全学共通科目
後期	金4	Fundamental Physics B	工学研究科	KIM Kwangmoon	全学共通科目
前期	月3	基礎比較経済論	経済学研究科	D、ヤルナゾフ	経済学部
後期	水1	基礎組織行動論	経済学研究科	稲葉 久子	経済学部
後期	水2	基礎人的資源論	経済学研究科	稲葉 久子	経済学部
後期	金3	基礎企業ガバナンス論	経済学研究科	D、ヤルナゾフ	経済学部
前期	水4	学部特殊講義IIA	こころの未来研究センター	内田 由紀子	総合人間学部
前期	水4	多文化社会論IIA	人間環境学研究科	ブライアン・ハヤシ	総合人間学部
後期	水4	多文化社会論IIB	人間環境学研究科	ブライアン・ハヤシ	総合人間学部
後期	水5	英語コミュニケーション論	人間環境学研究科	M.ピーターソン	総合人間学部
後期	その他	分子細胞生物学特論	生命科学研究科	竹安 邦夫	総合人間学部
前期	月3	心理学特別講義	学際融合教育研究推進センター	Christian Altmann	文学部
前期	水2	科学哲学科学史特別講義	文学研究科	伊勢田 哲治	文学部

前期	木3・4	社会学特別講義	ストラスブルグ大学・北京外国語	Francoise、周 維侯	文学部
前期	金2	現代史学(演習II)	国立オスロ大学	STEGEWERNS, Dick	文学部
前期	金2	二十世紀学(演習II)	国立オスロ大学	STEGEWERNS, Dick	文学部
後期	木3,木4	社会学(特殊講義)	フランス国立科学研究センター・	BERTAUX・Wongyannava	文学部
通年	木2	アメリカ文学(外国人実習)		LUDVIK, Catherine	文学部
通年	火5	インド古典学演習	文学研究科	ACHARYA, Diwakar Nat	文学部
通年	水2	インド哲学史(講義)	文学研究科	ACHARYA, Diwakar Nat	文学部
通年	水3	西洋古典学特別講義	文学研究科	マルティン チエシュコ	文学部
通年	水4	二十世紀学特別講義	人間環境学研究科	ブライアン・ハヤシ	文学部
通年	水4	現代史学特別講義	人間環境学研究科	ブライアン・ハヤシ	文学部
通年	水5	インド古典学特別講義	文学研究科	ACHARYA, Diwakar Nat	文学部
通年	木1	英語学英文学(特殊講義)		マイケル・エドワード・ジャメンツ	文学部
通年	木1	アメリカ文学(特殊講義)		マイケル・エドワード・ジャメンツ	文学部
通年	木2	西洋古典学演習	文学研究科	マルティン チエシュコ	文学部
通年	木2	英語学英文学(外国人実習)		LUDVIK, Catherine	文学部
通年	木4	英語学英文学(特殊講義)	神戸市外国語大学	Campana, Mark Robert	文学部
通年	木4	アメリカ文学(特殊講義)	神戸市外国語大学	Campana, Mark Robert	文学部
通年	金1	英語学英文学(外国人実習)		マイケル・エドワード・ジャメンツ	文学部
通年	金1	アメリカ文学(外国人実習)		マイケル・エドワード・ジャメンツ	文学部
後期集中		心理学(特殊講義)	メルボルン大学	嘉志摩 佳久	文学部
前期	火4	Exercises in Info Prossessing Basics	工学部国際コース	Tamrakar・Flores	工学部
前期	水4	Introduction to Global Engineering	工学部国際コース	嶋本 寛	工学部
前期	水5・木5	Exercises in Infrastructure Design	工学部国際コース	嶋本 寛	工学部
後期	火4	Information Processing Basics	工学部国際コース	Kim	工学部
後期	木5	Computer Programming in Global Engineering	工学部国際コース	Tamrakar・Flores	工学部
前期	火3	国際教育研究フロンティアEI		R・マツイク	教育学部
前期集中		国際教育研究フロンティアA		E. マナロ	教育学部
前期集中		国際教育研究フロンティアB		W. YONGJE	教育学部
前期集中		国際教育研究フロンティアC		P. スタンディッシュ	教育学部
前期集中		国際教育研究フロンティアD		南部 広孝	教育学部
後期	火3	国際教育研究フロンティアEII		R・マツイク	教育学部

(科目名) 英語講義：教育調査方法II (英 訳) Social Science Research Methods in Education II	(群) A群 (単 位 数) 2単位 (開 講 期) 前期 (週コマ数) 1コマ (授業形態) 講義 (対象回生) 全回生 (対象学生) 全学向 (曜 時 限) 火2
(所 属 部 局) (職 名) (氏 名) 国際交流センター 准教授 河合 淳子	

(授業の概要・目的)
英語で学ぶ教育調査法入門

(授業計画と内容)
Course Overview
Education is a complex subject partly because everyone, having been educated, has a personal view about what education should be and should not be. However, generalizing from one ' s own experience can be dangerous. This is one of the reasons why sociological perspectives become important in the field of education. Moving between the particular and the general, the personal and the social, the concrete and the abstract is one of the capacities we will try to develop in this class.

Students will learn the nature, purposes and methods of social science research in the field of education and each student will experience a small-scale research project. Students will be asked to go out and take a close look at what is happening and what has happened in Japanese education.

Class time is used for instructor ' s lecture, discussion, and students' presentation.

Topics

1. Overview of the Development of Social Science Research
2. The Nature and Purposes of Social Research in the Field of Education
3. “ Education ” from Comparative Sociological Perspectives
4. Research Planning: What Are Your Questions?
5. Introduction to Research Methods
- 5-1: Modes of Inquiry- Quantitative Modes of Inquiry and Qualitative Modes of Inquiry
- 5-2: Data Collection Techniques
- (1) Questionnaire (2) Observation (3) Interview
- 5-3: Interpretations of Data
6. Ethical issue in Social Research
7. Conducting Your Project

英語講義：教育調査方法II(2)

(成績評価の方法・基準)

Participation to the group project and class activities (30%), short reports(30%), and Final report(40%).

授業への参加(30%)、課題レポート(30%)、期末レポート(40%)で評価する。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

講義後半にはKUINEP留学生とグループになり簡単な実地調査に取り組む。旅費(交通費)が必要な場合、原則として受講生の負担となります。学生教育研究災害傷害保険に各自加入しておくこと。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

(履修要件)

特になし

(教科書)

授業中に指示する

(参考書等)

授業中に紹介する

(関連URL)

(科目名) 英語講義：日本古典文学入門
(英 訳) Introduction to Classical Japanese Literature

(群) A群
(単 位 数) 2単位
(開 講 期) 後期
(週コマ数) 1コマ
(授業形態) 講義
(対象回生) 全回生
(対象学生) 全学向
(曜 時 限) 木2

(所 属 部 局) (職 名) (氏 名)
国際交流センター 准教授 河上 志貴子

(授業の概要・目的)

日本古代から近世までの代表的な作品を通じて、繰り返し現れる日本古来の、さまざまな文学的理念、規範、価値等について考察すると共に、それらの文学的理念等が、どのように形成され、またどのような変遷を経て、現代にまで継承されてきたかについて考察を試みる。

(授業計画と内容)

種々の作品を残した日本古典文学の作者達は、一体どのような出来事、事柄、性質によって刺激を受け、触発され、そして、その刺激に対し、いかに文学的に答えようとしたのだろうか。どのようなものを好み、どのようなものを敬遠したのだろうか。また、さまざまな文学的理念、規範や価値の中で、現代にまで継承されてきた概念には、どのようなものが見られるのだろうか。一方、変容されたものは、どのようにその変貌を遂げたのだろうか。

本授業では、奈良時代から江戸時代にかけての代表的な作品の精読を通じ、上記のような問題について考察する。日本の古典には、「もののあはれ」、「をかし」、「いろごのみ」、「無常」、「幽玄」、「花」、「風雅・風流」、「わび」、「さび」、「勧善懲悪」等々といった、幾つか重要なテーマを見出すことができる。同時に、「妻問ひ」、「隠遁」、「ますらを(振り)・たをやめ(振り)」、「判官鼻眞」、「粹・いき・通」、「義理人情」等々、さまざまな社会的慣習、生き方、価値観等の類も見られる。これらの文学的理念、規範、価値等が、日本文学歴史上どのように形成、維持され、あるいは衰退していったかについて検討すると共に、現代において、どのように受け入れられ、あるいはどんなふうに変容されたかについて考察する。

本授業で取り扱う主なジャンル：

- 和歌 (『萬葉集』、『古今和歌集』、『新古今和歌集』等)
- 史書 (『古事記』、『日本書紀』等)
- 日記 (『土佐日記』等)
- 物語、説話 (『源氏物語』、『今昔物語(集)』、
『平家物語』等)
- 随筆 (『枕草子』、『方丈記』、『徒然草』等)
- 歌論等 (『無名抄』等)
- 能、浄瑠璃、歌舞伎 (世阿弥、近松門左衛門等)
- 俳諧 (『奥の細道』等)
- 浮世草子、読本等 (『好色一代男』、『雨月物語』等)

英語講義：日本古典文学入門(2)

また、上記の作品の作風や文体、表現技法等にも注目し、それらの役割について考察する。

トピック：

- 1.日本文学史の概要
 - (1)主な時代と傾向
 - (2)主なジャンルとテーマ
 - (3)代表的作家及び作品
- 2.奈良時代
- 3.平安時代（初期）
- 4.平安時代（中期～末期）
- 5.鎌倉時代
- 6.南北朝・室町・安土桃山時代
- 7.江戸時代

（成績評価の方法・基準）

以下を授業の成績評価の対象とする：

- (1)出席及び、授業への参加態度
- (2)レポート

学生は各自で、好きな作品（またはその一部）を対象に、本授業で取り上げたテーマ（複数選択可）との関連について分析・考察したものをレポートにまとめ、提出することとする。また、授業期間中、レポート作成について授業担当の教員と相談できる機会もある。

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

（無し）

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

英語講義：日本古典文学入門(3)

(履修要件)
特になし

(教科書)
必要に応じて、授業時に資料を配布する。
(参考書等)

Donald Keene (editor) 『Anthology of Japanese Literature: from the earliest era to the mid-nineteenth century』 (Grove Press)

Helen Craig McCullough (editor) 『Classical Japanese Prose: An Anthology』 (Stanford University Press)

Steven D. Carter (translator) 『Traditional Japanese Poetry: An Anthology』 (Stanford University Press)

Miner, Earl et al., The Princeton Companion to Classical Japanese Literature, Princeton University Press, 1985.

(関連URL)

(科目名) 英語講義：開発経済学II (英 訳) Development Economics II	(群) A群 (単 位 数) 2単位 (開 講 期) 前期
(所 属 部 局) (職 名) (氏 名) 国際交流センター 教授 森 純一	(週 コ マ 数) 1コマ (授 業 形 態) 講義 (対 象 回 生) 全回生 (対 象 学 生) 全学向 (曜 時 限) 月2

(授業の概要・目的)

International trade and financial markets play a significant role as developing countries try to develop their economies and catch up with the industrialized countries. This course will deal with the role international trade and financial markets play in the economic development of developing countries.

- 1) It is often the case that there is a considerable benefit for countries participating in trade on an international scale. Why is this the case? We will learn about the comparative advantage theory which is the supporting idea of the free trade.
- 2) From the 1960s to the 70s, the Latin American countries pursued an import substitute policy, which resulted in the inefficient protection of domestic industries. As a result, more liberalized policies were adopted in the 90s. In comparison, East Asian countries succeeded by pursuing export-led economic development through aggressively courting direct investment. Such an experience seems to indicate that an export-led industrial policy leads to successful economic development. But what are the factors that are indispensable to success?
- 3) The world seems to be moving, on the one hand, towards multilateral arrangements for trade liberalization led by the WTO, and on the other, towards bilateral or regional arrangements such as the creation of free trade areas (FTA). What benefits and problems do these arrangements bring to developing countries?
- 4) As the real economy internationalises and economies develop, developing countries need funds from the domestic and international financial markets. For example, East Asian economies enjoy high savings rates, which was the key to their unbelievable growth in the 90s. In this process, informal finance has played an important role. We will look at informal and formal finance systems of the Asian countries.
- 5) At the end of the course we will study the case of Vietnam from the viewpoints of rural development, trade and finance based on the recent data.

(授業計画と内容)

The course will be interactive. Reports of the World Bank and other materials for the following class will be introduced or distributed during each class. Attendants must study the material before each class and will be expected to participate in active discussions. Two paper will be required during the course.

英語講義：開発経済学II(2)

(成績評価の方法・基準)

Evaluation will be made based on participation in the discussions during class and written papers.

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

経済学の知識を前提としません。授業では学生による発表やレポート作成をやってもらいます。英語力は京大生であれば問題ないと思いますが、多くの英文資料を読む気力は必要です。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

(履修要件)

特になし

(教科書)

Krugman, Paul and Maurice Obstfeld 『International Economics 7th Edition』 (Pearson International Edition) ISBN:0-321-31154-X

(参考書等)

その他

Bhagwati, Jagdish "Free Trade Today", Princeton Paperbacks, 2002

Krugman, Paul and Maurice Obstfeld, International Economics, Pearson International Edition, 2006

Ray, Debraj, Development Economics, Princeton, 1998

Yujiro Hayami, Development Economics, Oxford, 2005

(関連URL)

経営戦略の基礎2 (Essentials of Business Strategy II)

2011 Spring

Professor Hiroaki Nagayama

Tel 075-753-2554

E-mail: h.nagayama@aw8.ecs.kyoto-u.ac.jp

Thursday 16:30-18:00

Office Hours: No specific date and time. Please make an appointment by sending e-mail.

(Course description)

This course is a continuation of the “Essentials of Business Strategy” series. We will use case studies of the Harvard Business School, IMD, and Keio Business School to help us further understand the theoretical frameworks discussed in “Essential of Business Strategy I”. We will then explore the linkages between concepts and practices by looking at companies in various competitive environments. Every case study that we will consider describes an actual business situation involving real companies.

During this course, students are expected to acquire an ability to create strategies and make decisions according to the various situations that may be faced in real business environments.

(Lecture Format)

- Read the case and answer the questions before you attend the class.
- Classes are intended to be structured in the following sequence: 1)Group discussion and preparation of presentations, 2)Class discussion and short lecture, 3)Description of the case to be analyzed at the next session.
- Group consensus is not necessary for group discussion. Reevaluate your viewpoint by exchanging opinions.

Evaluation

Grades are determined based on the following:

- (a)Homework: case studies for each class (50% : 10HW×5 points)
(*These 10 cases do not include the cases that will be used for the Group case analyses tasks)
- (b)Group case analysis reports and presentations regarding two cases during the term (40% : 20%×2)
(*Total number of members of each group should be no more than 5 students.
- (c)Others: class contribution for discussion, etc. (10%)

(Major requirements)

1. Students must have taken the “Essentials of Business Strategies I” course in Fall semester, 2010 before taking registering for the present course. This course assumes prior knowledge of strategic tools such as PEST, Value chain, SWOT analysis, VRIO, CFT, PPM, Porter’s competitive theories, Kotlers’ marketing theory, Blue Ocean strategy, IRR, NPV, etc, covered in the class ” Essentials of Business Strategies I”.
2. Non-KUINEP students have to purchase the cases to be used in the class as precondition to register for this course.
3. Only credit-seeking students will be accepted for this course(auditing student will not be accepted).
4. It is preferable to have basic operating skills in EXCEL since financial analysis will be done using EXCEL.

(Reference)

If you want to study further – to deepen your understanding of the areas considered in case discussions and the lectures, or to appreciate a wider overview of the analyses -- reviewing the following textbooks is recommended;

- Robert M. Grant (2010) “Contemporary Strategy Analysis” 7th edition
- Michael E. Porter(1996)“What is Strategy?” Harvard Business Review November-December 1996
- Kotler, and Keller (2006). Marketing Management, 12e, Pearson International Edition

(Tentative course timetable)**Essentials of Business Strategy II (Case studies)**

	Date	Purpose	Case
Day 1	April 14	Outline of the class	• KATAOKA & Co., Ltd. (A), (B)(Keio)
Day 2	April 21	Innovation and source of continuous superiority over competition	• Google: How can creativity be managed? (Keio)
Day 3	April 28	PMA, Blue Ocean	• Askul Co., ltd. : Office mail-order business (Keio)
Day 4	May 12	Global Marketing	• P&G Japan: The SK-II Globalization Project (HBS)
Day 5	May 19	Employees' satisfaction	• Starbucks: Deliver customer service
Day 6	May 26	Product Innovation and Marketing	• Innovation And Renovation: The Nespresso Story (IMD)
Day 7	June 2	Analysis on car industry	• Toyota: Launching Prius (HBS)
Day 8	June 9	B2B companies Marketing strategy of new products.	• Optical Distortion, Inc. (A) (HBS)
Day 9	June 16	Marketing in emerging markets	• Shiseido(HBS)
Day 10	June 23	Marketing of new products	• Asahi Breweries (HBS)
Day 11	June 30	HRM	• Sony (Keio) • Sony Europa (A) ,(B),(C) (IMD)
Day 12	July 7	Creating latecomers' advantage through emerging markets	Hauwei: CISCO's Chinese Challenger (Asia Case Research centre,) The University of Hong Kong 2006

(*) Order of the case will be subject to change according as the progress of the class.

(科目名) 英語講義：現代物理学
(英 訳) Modern Physics

(群) BC群
(単 位 数) 2単位
(開 講 期) 前期
(週コマ数) 1コマ
(授業形態) 講義
(対象回生) 全回生
(対象学生) 理系向
(曜 時 限) 月3

(所 属 部 局) (職 名) (氏 名)
国際交流センター 准教授 青谷 正妥(アオタニマサヤス)

(授業の概要・目的)

[An Important Note]

In the following, descriptions and explanations in Japanese apply only to Japanese students and other regular Kyoto University students. Exchange students should ignore the Japanese text.

[重要]

日本人及び正規生の方は、日本語の説明を読んで下さい。英語は交換留学生用の説明です。

Course Objective

The purpose of this course is to introduce engineering and science students to the foundations and principles of modern physics, specifically quantum mechanics and its applications.

理系の学生の為の、現代物理学の根幹を成す量子力学の基礎理論と応用の講義です。(C群として登録した場合には、成績評価の方法が全く違います。『成績評価の方法』の日本語部分を読んで下さい。)

(授業計画と内容)

Overview

We will study the main concepts of quantum mechanics developed since the turn of the century. The overall learning objective is to acquire the contextualized knowledge and analytic skills necessary to construct an understanding of phenomena in the domain of quantum mechanics. To this end, we will cover the following topics.

概要

量子力学の主要概念を学び、量子力学的現象を正しく理解する為の、知識のフレームワークと解析的能力を身に付けます。

Topics Covered

1. Crises in Classical Physics
2. Planck and Blackbody Radiation
3. Einstein and Photoelectric Effect
4. Compton and Rutherford Scattering
5. Bohr Model

英語講義：現代物理学(2)へ続く

英語講義：現代物理学(2)

6. DeBroglie ' s Matter Waves
7. Birth of Quantum Mechanics
8. Schroedinger Equation
9. Square Well Potential
10. Scattering in One dimension
11. Simple Harmonic Oscillator
12. Electron Spin
13. Spectroscopy
14. Other Applications

主な内容

1. 古典物理学の破綻
2. マックス・プランクと黒体輻射
3. アインシュタインの光電効果
4. コンプトン、ラザフォード散乱
5. ボーアモデル
6. ド・ブロイの物質波
7. 量子力学の誕生
8. シュレーディンガー方程式
9. 井戸型ポテンシャル
10. 一次元の散乱
11. 調和振動子
12. 電子スピン
13. 分光法
14. その他の応用

(成績評価の方法・基準)

There will be a final examination.

B群登録の人には、期末テストが有ります。

C群の人は、期末テストの代わりに以下をします。

1. 毎週100語から300語程度の英作文や和文英訳（主に統計分野より）
 2. 5分間の英語presentation（クラスの最初：順番制）
 3. 毎週10分から20分の聴解練習の宿題（ファイルは教員のサイトよりダウンロード可能）
 4. 期末テストの代わりに英文レポート（＝英語の課題長作文）
- 尚、読解訓練は随時配布するlecture notes（英語で書かれた講義ノート）等を読む事です。

(その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）)

This course is not suitable for upper division students in sciences.

量子力学の基礎であり、理系の上回生向きではありません。

英語講義：現代物理学(3)へ続く

英語講義：現代物理学(3)

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

(履修要件)

Prerequisite

Mastery of high school physics and mathematics at the level necessary to pass Kyoto University's entrance examination is required. This means mathematics through calculus and non-calculus-based high school physics.

高校の理系の数学、及び、理系の物理学。

(教科書)

使用しない

No required text

指定教科書無し。

(参考書等)

Robert Martin Eisberg and Robert Resnick 『Quantum Physics: Of Atoms, Molecules, Solids, Nuclei, and Particles 2nd edition (January 1985)』 (John Wiley & Sons) ISBN: 047187373X

青谷正妥 (あおたにまさやす) 『英語勉強力』 (DHC出版事業部) ISBN:4-88724-404-5

あくまでも参考書であって、二つとも買う必要は全くありません。因みに僕の印税は0%です。本当です。

それから、DHCは例の化粧品の会社ですが、元々は出版や翻訳から始まった会社です。なにしろ、DHCはDaいがくHoんやくCenter (大学翻訳センター) を意味するのですから。これも本当ですよ！

(関連URL)

<http://aoitani.net/>

<p>(科目名) 日本語コミュニケーションの特徴 (英 訳) Some Features of Japanese Communication</p>	<p>(群) A群 (単 位 数) 2単位 (開 講 期) 前期 (週コマ数) 1コマ (授業形態) 講義 (対象回生) 全回生 (対象学生) 全学向 (曜 時 限)</p>
<p>(所 属 部 局) (職 名) (氏 名) 国際交流センター 教授 パリハワダナ ルチラ</p>	
<p>(授業の概要・目的) 私たちは相槌一つを打つ時にさえも、無意識的であるとは言え、話し相手との上下関係や年齢、話題などによって打つ相槌の種類を選択し、その相槌の打ち方を通して相手に対する配慮を表現する。このようにコミュニケーションの諸形式において、言語の使い方を左右する社会・文化的背景が見えてくる。この授業では様々な日本語コミュニケーション形式を取り上げながら、それらの特徴について考察する。取り上げる言語事象やその分析を手掛かりにしながら、様々な言語現象に気付き、観察する関心・能力を養うことがこの授業の目標である。</p>	
<p>(授業計画と内容) この授業では、ノンバーバルコミュニケーション、相槌表現、フィラー、呼称表現、依頼表現、断り表現、謙譲表現などを例にしながら、日本語のコミュニケーションの諸特徴について考察する。とりわけ、聞き手に対する配慮意識がこれらの表現においてどのように反映されているのかを考えて見る。談話の進行の仕方や情報構造と配慮機能の関わり方などについても取り上げる。 なお、クイズ形式の課題に基づいたディスカッションも適宜行いたいと思う。</p> <p>(成績評価の方法・基準) 期末レポート、クイズ・ディスカッションへの参加度合い、出席を基準に評価する。</p> <p>(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 履修者自身の言語行動について注意深く内省しながら、ディスカッションなどに積極的に参加して頂きたい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>	
<p>(履修要件) 特になし</p>	
<p>(教科書) プリント配布。 (参考書等) 国立国語研究所 『言語行動における「配慮」の諸相』 (ころしお出版) Brown, P. & Levinson, C. 『Politeness Some Universals in Language Usage』 (Cambridge University Press)</p>	
<p>(関連URL)</p>	

(科目名) 異文化間コミュニケーションと海外留学 (英 訳) Intercultural Communication and Study Abroad	(群) A群 (単 位 数) 2単位 (開 講 期) 前期 (週コマ数) 1コマ (授業形態) 講義 (対象回生) 全回生 (対象学生) 全学向 (曜 時 限) 火3
(所 属 部 局) (職 名) (氏 名) 国際交流センター 教授 森 純一 国際交流センター 助教 渡部 由紀	

(授業の概要・目的)

グローバル化が進む現代社会において、文化背景の異なる人と共に暮らし、学び、働いていくための能力が、今までになく重要となってきた。この授業では異文化コミュニケーションの理論を学び、私たちの言語、行動、価値観、世界観への文化の影響について理解を深め、また、自分と異なる文化背景を持つ人々とコミュニケーションするための方法を学ぶ。海外留学を考えている人たちには、異文化で暮らし、学ぶための準備講座になる。

この授業の学習到達目標は下記の3点である。

- 1.異文化コミュニケーションに関する主な概念や理論を説明できる。
- 2.自らの文化に気づき、理解を深め、そしてそれがどのようにコミュニケーションに影響を与えているか説明できる。
- 3.文化の違いに対する認識力を養い、文化の違いを客観的に見ることができる。

(授業計画と内容)

各週のテーマは下記の通り。

- 第1週目：オリエンテーション
- 第2週目：グローバル化する社会
- 第3週目：文化の定義
- 第4週目：文化とアイデンティティ
- 第5週目：異文化シュミレーション
- 第6週目：言語によるコミュニケーション
- 第7週目：非言語コミュニケーション
- 第8～10週目：文化を学ぶストラテジー
- 第11週目：カルチャショックと異文化適応
- 第12～14週目：ファイナル・グループ・プロジェクトのプレゼンテーション
- 第15週目：まとめと留学を考える

授業形式は講義、クラスディスカッション、グループディスカッション、グループワークを含む。

異文化間コミュニケーションと海外留学(2)

(成績評価の方法・基準)

授業への出席と参加 30%
課題レポート 40%
ファイナル・グループ・プロジェクト 30%

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

受講生自身の価値観やコミュニケーションスタイルについて注意深く内省しながら、ディスカッションやグループワークへの積極的な参加を期待する。

講義後半では、グループでファイナル・プロジェクトに取り組む。文献調査、インタビューなどの簡単な実地調査を行う。旅費(交通費)が必要な場合、原則として受講生の負担となります。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

(履修要件)

特になし

(教科書)

授業中に指示する
(参考書等)

(関連URL)

(科目名) 英語勉強力 I (英訳) English as a Foreign Language I	(群) A 群 (単位数) 2 単位
(所属部局)(職 名)(氏 名) 国際交流センター 准教授 青谷 正妥 (あおたにまさやす)	(開講期) 前期 (週コマ数) 1 コマ (授業形態) 講義 (対象回生) 全回生 (対象学生) 全学向 (曜時限) 金 5 (教室) 国際交流センター-KUINEP 講義室

授業の概要・目的

【講義全体の目的】

1. 大人の英語学習・教育の特性を理解し、
2. 具体例を見て勉強の仕方を学び、
3. もちろん講義内でも練習を重ね、
4. あくなき効果と効率の追求の中で、
5. みずからの学びを作る事と、

A. 英語学習・教育の難しさの理解を、

B. 途中でくじけない『ハートの強さ』につなげる事です。

再確認するまでもありませんが、『言うは易く行うは難し。』

(この syllabus の締め切りは 01/24/2011 でしたが、毎月講義の内容を検証し、恒常的・連続的にやり方を改善しています。完全に内容が変わる事はありませんが、<http://aotani.net/aotani-KKyoto.html> や国際交流センターの青谷研究室のすぐ外の掲示によって、最新版をチェックし続けて下さい。)

【長文ですが、*必ず*全体を読んでもください。そして納得尽くまで講義を取ってください。】

最初にこういう講義をやる資格と言いますか、講師の紹介をしておきます。

講師の青谷正妥(あおたにまさやす)は学士が京都大学理学部(化学)、修士がニューヨーク市立大学(数学)、一つ目の博士号(Ph.D.; 理学博士)がカリフォルニア大学バークレー校の数学、二つ目の博士号(Ed.D.; 教育学博士。但し、

正式な授与は学年が終わる 2011 年 5 月 13 日です) がテンプル大学 (フィラデルフィアにあるペンシルバニア州の公立大学。大阪分校があります) の第二言語習得 (要するに外国語学習・教育) です。1979 年京都大学理学部大学院 (当時は理学研究科と言う名前はありませんでした) 1 回生の途中で渡米し、20 年間アメリカで生活。首都ワシントン、ニューヨーク、サンフランシスコ等東西海岸の主要都市で、メリーランド大学、プリンストン大学、ニューヨーク市立大学、カリフォルニア大学バークレー校、サンフランシスコ州立大学と 5 つの大学院に在籍。在米中、プリンストン大学、カリフォルニア大学、MIT を含む 4 短大・11 大学で教鞭を執り、化学・生物学・数学・統計学・物理学・天文学・日本語・経営学・電子工学・コンピューターの講義を担当。又十年間企業にて広報・研修等に従事、シリコンバレーでも勤務。化学より物理・数学へと二十一年間で化学者から数学者に変身。最近は英語教育にも力を入れており、英語力に関しては、1978 年から英語検定 1 級、現在は TOEIC・TOEFL CBT・TOEFL iBT が満点です。* しかし *、これを見てください。
(http://aoitani.net/Eigo_Taihen.mhtml)

さて、

好きでも嫌いでも、とにかく必要な英語。小・中・高で培った基礎力を元に、大学以降の応用編をどうするか。日本人が世界最低と言われるスピーキング、最後まで完璧には出来ないリスニングを始め、総合的英語力養成のための指針を与えます。最初が肝腎です！渾身の努力が必要なので、当然怠け者には不向き。

著書『英語勉強力』(2005 年 10 月、DHC 出版事業部) にも一部基づいて、英語の運用能力を付けるとはどういう事か、大人の英語学習とは何かと言った概念的な内容から始め、第二言語習得の最近の研究に基づいた英語学習の実際を総合的に説明し、効果と効率を追窮した理詰めの英語運用力の養成を行います。

日本人の大半がそうですが、たとえば京大生の場合、やるべき事が大きく分けて二つあります。

1. 単語力・表現力・発音力等々、英語の基礎能力そのものを高める。
2. 既存の能力の流暢な使用力を高める。

1 については、たとえば京大生の典型的な単語力は 4000 語レベルと言われてい

ますが、日常使用に必要な語彙数は 7000 から 9000 語。この 1 万語レベルの語彙は様々な表現に使用できる深みの有る相互に有機的に繋がったものでなければなりません。この力は圧倒的にインプット処理、日本人の場合には英語を読む事で培われます。ネイティブの書いた英語に触れる事で、新しい単語や表現、既知の単語の新しい使用法を学ぶのです。

2 については、書いたり話したりするアウトプット訓練が効果的です。インプット処理とは比較にならないほど言語に集中するのがアウトプットですから、読んだり聞いたりするだけでは気付かない弱点に気づき、文字通り『英語をあやつる』力が身に付くのです。自ら使える英語力が高まれば、ネイティブスピーカーが英語をどう使うかも理解できるようになり、それによりインプット処理能力がまた高まるという雪だるま現象・相乗効果が起こります。

インプットについては、一年に 100 万語レベル (A4 だと普通の書き方で大体毎日 6.5 ページくらいです) の英語に触れる必要があるうえ、たとえば教室で全員が黙々と読んでいるというのも変な図ですから、授業では圧倒的にスピーキングの練習を行います。アウトプット力に牽引されて英語の運用力全体が向上するのが理想なのに、下を見てください。TOEFL iBT という国際的な英語の標準テストにおける日本人と京大生の平均成績です。(京大生は僕がつかんでいる範囲の人達です。) 左から、読む・書く・聴く・話す力 (各 30 点満点) です。

日本人	16	18	16	15	65
京大生	23	22	19	15	78

実は日本人の話す力は単独世界最下位で、京大生の平均もまったく同じ点です。これをなんとかするのが授業の目的ですが、以下の事実を先ず確認してください。(http://aoitani.net/Eigo_Dekinai.mhtml)

- 小学校 1 年からアメリカの学校に入る移民の子供は、4 年から 7 年でやっと授業に支障の無い英語力 (ネイティブではない) になる。中学卒業時にネイティブ並みにならない人もいる。

Hakuta, K. (2000). How long does it take English learners to attain proficiency. Policy Reports. Retrieved from <http://escholarship.org/uc/item/13w7m06g>

- 現地に留学し週 17 時間の授業を 13 週間受けても、5 割程度は目立った上達をしない。

Segalowitz, N., Freed, B., Collentine, J., Lafford, B., Lazar, N., & Diaz-Campos, M. (2004). A comparison of Spanish second language acquisition in two different learning contexts: Study abroad and the domestic classroom. *Frontiers Journal*, 10, 1-18.

- 10%の海外研修参加者の会話力は低下。24%は変わらなかった。国内で何年も学んでも、中級の中から上で進歩が止まっている人が多い。

Berg, M. V., Connor-Linton, J., & Paige, R. M. (2009). The Georgetown Consortium Project: Interventions for student learning abroad. *Frontiers Journal*, 18, 1-75.

以上の様に、なかなか伸びないのは完全に想定内です。そもそも英語が本当に出来るとは英語で考えられるということですが、こんな奇跡のようなことが、そんなに簡単にできるわけがありません。目安は10年です。

と言う訳で、今すぐに始めて永遠にやり続けます！

実際には、

- ・ 講義の大半は、実際のスピーキング練習や能力測定の為のテストです。しかし、
- ・ 四技能を同時に高める事によってのみ英語運用力が身に付くので、原則として聴解・読解・作文・会話を全部やるつもりです。

- ・ 講義中に上達するのではなく、講義で得た物を踏み台として、自ら講義外で訓練に励んでこそ、真の上達が有ると考えて下さい。なんと云っても、一年に100万語とか、習熟に10年とか言われる中で、一学期間の講義だけでは圧倒的に不十分なのは明らかでしょう。クラス外でも、またクラスが終わった後も、自分で学習を続ける事が肝要なので、その為のサポートもします。

- ・ 「技能科目としての英語」「英語力が欲しければ英語の勉強力をつけよ」「英語学習の三つの螺旋構造」「読む書く聴く話す：四技能の総合的養成」などが骨子になります。しかし、毎日の練習時間と練習量の確保が無ければ絶対に上達しません。

- ・ 僕の海外の大学院についての講義や英語関連の講義の統一テーマは「国際性」です。身につけた英語力と国際感覚を駆使して活躍していただくのが目標なので、ステップゼロの英語で躓（つまず）かないでください。

授業計画と内容

「全体説明」(1,2回の予定：全て授業時間中です。)

第1回目の授業で、日本人・京大生の英語力やそれに合わせた運用力の養成法、更には講義の概要の説明をします。必ず出席して下さい。その後、最初の数回で現段階での英語力を測定するテストをし、グループ分けをして練習します。練習はスピーキングが中心で、一人でしゃべる物と二人で練習する物があります。

「技能科目としての英語」：青谷の若い頃には無かった英語学習の方法論を実習を通じて学びます。

実際の訓練は以下の様になります。(恒常的に改善中です。実例はカッコ内の Web site を見てください。但し、量が膨大ですので、自分で全部見るというよりは、サンプリング程度にとどめ、一回目の講義で概要の説明を聞く時の準備程度に留められることをお勧めします。)

A. 独話：短いお題(例：一番辛かったこと)を与えられ、15秒考えて45秒間一人でしゃべります。(http://aoitani.net/TOEFL_Speech/TOEFL_Speaking.doc)

B. 会話：短い話題(例：京大の何を変えたいか)につき、2分から3分でペアで会話をします。(http://aoitani.net/TOEFL_Speech/Conversation_Questions.doc)

C. ディクテーション：普通は英語を聞いて書き留める物ですが、ノーマルスピードの定時ニュース(日本でもある2時の5分間ニュースとか、そういう類)は、殆どのみなさんの手に負えないので、皆さんが聞き、僕が黒板にディクテーションをします。

D. 意識・略訳・概訳・近似訳の訓練：大学生が日常生活で普通に使う日本語の短文(例：多数決は常に正しいのかどうかは、議長にとって頭の痛い問題である)の意味の概略を10秒ほどで、現有戦力の英語力で言い切ります。当然、意味は近似しかできません。流暢さ養成の訓練であって、正確な翻訳の訓練ではないのです。Quick and dirty(質を犠牲にしても速くやること)を旨とした訓練で、やる時には関連した6文を60秒でやる場合が多いです。

(http://aoitani.net/Q_D_Trans_1.doc http://aoitani.net/Q_D_Trans_2.doc)

E. アメリカの大学生用の作文トピックの利用：トピックそのもの(通常5行以内)をreadingとlisteningに用いた後、2分間日本語で議論をし、2分間英語で議論をし、それに基づいてあい方に3分で自分の意見をまとめて言います。『人は少数の人に影響されて人格形成をすると信じるが、実際には社会全体・人類の歴史全体が人を作るのではないか』とか、ハイレベルの物が多いです。

(http://aoitani.net/GRE_topics.doc)

F. 前回の作文の宿題のトピックについて、つまり既にかいた作文の内容等を思い出しながら、今度は口頭で 2,3 分パートナーと会話をします。

(http://aoitani.net/TOEFL_Speech/TOEFL_Writing_Topics.doc)

成績評価の方法・基準

中間・期末試験は有りませんが、出席だけは非常に重んじます。毎回授業に出席し、宿題をやり、数種的能力測定テスト（成績評価にも関係し、僕にも将来の京大生にも非常に役立ちます。講義中に行います）を全て受ける事が単位取得の最低条件です。

その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）

担当教員は、1978 年京大理学部卒。大学院在学中（一回生の途中）に渡米し、米国に 20 年滞在。十年前に京大に戻り、現在は国際教育プログラム等の担当。多分変人ですが善人です。尚、一部茶髪等、見かけは若そうですが、実は考え方は完全にオジンです。昭和 29 年（敗戦屈辱の昭和 20 年代）生まれですから、これは仕方が有りませんね。なにしろ、皆さんのお父さんの年齢なのでから。

「信義」などと言う言葉が出て来ても驚かない様にして下さい。それから「大学は天地の真理を追究する所」（つまり、単なる職業訓練所ではない）というのが僕の基本スタンスです。『小・中・高の学生や一般社会人がやってはいけないことは、当然大学生・大学院生もやってはいけない』ので、無断欠席・遅刻・授業中の私語には本気で怒ります。更に、『恥部も患部も曝（さら）け出し、敢然とその解決・改善にあたる』主義ですので、自分自身についても日本人全般についても、欠陥でも何でも、事実であればその通りそのまま述べます。当然、個人情報保護法に抵触したりすると駄目ですが、留学経験等々も含めた日本人の国際性の無さを示すデータや事例、京大生も日本人も英語力が世界最低レベルであることを示すデータ・テストスコア

(http://aoitani.net/Eigo_Sekai_Saitai.mhtml)、先進 47 経済圏で最下位の 47 位にランク付けされている日本の大学教育（研究ではありません）の現状 (<http://aoitani.net/47th.pdf>)、授業料を差し引いても一人頭 133 万円かかる京大生の教育費

(http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/issue/financial_report/documents/2010/

[financial_2010_d07.pdf](#) 12 ページ)

等は、個人情報にはあたりませんね。自分自身についても、青谷の間違いだらけの英作文の公開

(http://aoitani.net/Essay_Corrections/Masayasu_AOTANI.doc)

など、ちゃんと恥部も幹部も曝け出しています。事実を鋭い目で見つめ、有りの儘に描写するという姿勢は、学者としてはあまりにもあたりまえですが、そう言う真っ直ぐな態度が鼻につく人は、最初から来ないで下さい。

履修要件

一回目の授業への出席と、実力測定のためのテストの皆受験が必須です。更に、病気や事故等を除き、講義にすべて出席する事、正当な理由が有っても事前（事後に非ず。事後報告は破門）報告無しには欠席しない事、TOEIC・TOEFL を受けたら結果を報告する事などの条件があります。詳細は授業で説明しますが、一言で言うと『真摯な態度で授業に取り組み、小中高の学生や社会人がやらない事は大学生もしない』に集約されます。たとえば無断欠席なんて、しないのが社会の常識ですし、非常事態でなければ、欠席の際の事前報告はあまりにも当然です。尤も、なかなか出来ない英語、一筋縄ではいかない英語を、やってやってやり倒す気概があれば、後は自然についてくるでしょう。

教科書

授業中の handout（配布物）とネット上の教材のみ。
講義や練習の内容は、一部下記の参考書に基付いていますが、教科書は有りません。

参考書等

青谷正妥（あおたにまさやす）『英語勉強力』（DHC 出版）
あくまでも参考書であって、買う必要は全く有りません。むしろ授業を取れない人が読むべきですね。因みに僕の印税は0%です。本当です。
それから、DHC は例の化粧品会社ですが、元々は出版や翻訳から始まった会社です。なにしろ、DHC は Da いがく Ho んやく Center（大学翻訳センター）を意味するのですから。これも本当ですよ！

関連 URL

<http://aoitani.net/>

(科目名) 科学記事で英語の四技能を高める 中級I (英訳) Science Today, Science Tomorrow: Advanced I	(群) A 群 (単位数) 2 単位 (開講期) 前期 (週コマ数) 1 コマ
(所属部局)(職 名)(氏 名) 国際交流センター 准教授 青谷 正妥 (あおたにまさやす)	(授業形態) 講義 (対象回生) 全回生 (対象学生) 全学向 (曜時限) 火 5 (教室) 国際交流センター-KUINEP 講義室

授業の概要・目的

【講義全体の目的】：略歴にあるように、講師は本学理学部出身で理系ですが、これはサイエンスの講義ではありません。英語力をつける講義です。よって講義全体の目的は以下のとおりです。

0. それぞれの専門分野で活躍出来るよう、英語の四技能の養成を図る

という大目標達成のために、

1. 大人の英語学習・教育の特性を理解し、
2. 具体例を見て勉強の仕方を学び、
3. もちろん講義内でも練習を重ね、
4. あくなき効果と効率の追求の中で、
5. みずからの学びを作り、

A. 英語学習・教育の難しさの理解を、

B. 途中でくじけない『ハートの強さ』につなげる事。

再確認するまでもありませんが、『言うは易く行うは難し。』

中級と上級の違いは受講者の英語のレベル、中級Ⅰと中級Ⅱの違いは教材です。もともと、英語のレベルの差は僅少なので、中級・上級どちらを取るとしても、それほど気にする必要は無いでしょう。

(この syllabus の締め切りは 01/24/2011 でしたが、毎月講義の内容を検証し、恒常的・連続的にやり方を改善しています。完全に内容が変わる事はありませんが、

<http://aoitani.net/aotani-KKyoto.html> や国際交流センターの青谷研究室のすぐ外の掲示によって、最新版をチェックし続けて下さい。)

【長文ですが、*必ず*全体を読んでください。そして納得尽くまで講義を取ってください。】

最初にこういう講義をやる資格と言いますか、講師の紹介をしておきます。

講師の青谷正妥（あおたにまさやす）は学士が京都大学理学部（化学）、修士がニューヨーク市立大学（数学）、一つ目の博士号（Ph.D.；理学博士）がカリフォルニア大学バークレー校の数学、二つ目の博士号（Ed.D.；教育学博士。但し、正式な授与は学年が終わる 2011 年 5 月 13 日です）がテンプル大学（フィラデルフィアにあるペンシルバニア州の公立大学。大阪分校があります）の第二言語習得（要するに外国語学習・教育）です。1979 年京都大学理学部大学院（当時は理学研究科と言う名前はありませんでした）1 回生の途中で渡米し、20 年間アメリカで生活。首都ワシントン、ニューヨーク、サンフランシスコ等東西海岸の主要都市で、メリーランド大学、プリンストン大学、ニューヨーク市立大学、カリフォルニア大学バークレー校、サンフランシスコ州立大学と 5 つの大学院に在籍。在米中、プリンストン大学、カリフォルニア大学、MIT を含む 4 短大・11 大学で教鞭を執り、化学・生物学・数学・統計学・物理学・天文学・日本語・経営学・電子工学・コンピューターの講義を担当。又十年間企業にて広報・研修等に従事、シリコンバレーでも勤務。化学より物理・数学へと二十一年間で化学者から数学者に変身。最近は英語教育にも力を入れており、英語力に関しては、1978 年から英語検定 1 級、現在は TOEIC・TOEFL CBT・TOEFL iBT が満点です。*しかし*、これを見てください。
(http://aoitani.net/Eigo_Taihen.mhtml)

さて、講義の『科学』の部分ですが、

- ・基礎的英語運用力の土台を築き、専門英語に繋げる講義です。
- ・科学に限らず専門分野のみに特化した英語力と言う物は実は存在せず、専門英語＝一般英語力＋専門知識です。
- ・これは英語のクラスですので、特に『一般英語力』の養成に力を入れます。
- ・科学と言っても内容は多岐に渡るので、専門性の高い物は扱えませんが、文系・理系を問わず、京大生全員の最大公約数としての、高校レベルの数学と理科の英語には力を入れます。

・高校の基礎的な数学や理科の教科書の内容が英語で言える様、単語や表現を覚えて貰います。文系の人でも、 a の b 乗（例えば、 a to the power of b ）とかナトリウム（英語では sodium）とか、それぐらいは言えるべきです。アメリカの大卒は、誰でも当然言えますから。ただし、これは授業でやるのではなく、配布教材での自習です。

次は『英語』の部分。

好きでも嫌いでも、とにかく必要な英語。小・中・高で培った基礎力を元に、大学以降の応用編をどうするか。日本人が世界最低と言われるスピーキング、最後まで完璧には出来ないリスニングを始め、総合的英語力養成のための指針を与えます。最初が肝腎です！渾身の努力が必要なので、当然怠け者には不向き。

著書『英語勉強力』（2005年10月、DHC出版事業部）にも一部基づいて、英語の運用能力を付けるとはどういう事か、大人の英語学習とは何かと言った理念的な内容から始め、第二言語習得の最近の研究に基づいた英語学習の実際を総合的に説明し、効果と効率を追窮した理詰めの英語運用力の養成を行います。

日本人の大半がそうですが、たとえば京大生の場合、やるべき事が大きく分けて二つあります。

1. 単語力・表現力・発音力等々、英語の基礎能力そのものを高める。
2. 既存の能力の流暢な使用力を高める。

1については、たとえば京大生の典型的な単語力は4000語レベルとされていますが、日常使用に必要な語彙数は7000から9000語。この1万語レベルの語彙は様々な表現に使用できる深みの有る相互に有機的に繋がったものでなければなりません。この力は圧倒的にインプット処理、日本人の場合には英語を読む事で培われます。ネイティブの書いた英語に触れる事で、新しい単語や表現、既知の単語の新しい使用法を学ぶのです。

2については、書いたり話したりするアウトプット訓練が効果的です。インプット処理とは比較にならないほど言語に集中するのがアウトプットですから、読んだり聞いたりするだけでは気付かない弱点に気づき、文字通り『英語をあやつる』力が身に付くのです。自ら使える英語力が高まれば、ネイティブスピー

カーが英語をどう使うかも理解できるようになり、それによりインプット処理能力がまた高まるという雪だるま現象・相乗効果が起こります。

インプットについては、一年に 100 万語レベル (A4 だと普通の書き方で大体毎日 6.5 ページくらいです) の英語に触れる必要があるうえ、たとえば教室で全員が黙々と読んでいるというのも変な図ですから、授業では圧倒的にスピーキングの練習を行います。アウトプット力に牽引されて英語の運用力全体が向上するのが理想なのに、下を見てください。TOEFL iBT という国際的な英語の標準テストにおける日本人と京大生の平均成績です。(京大生は僕がつかんでいる範囲の人達です。) 左から、読む・書く・聴く・話す力 (各 30 点満点) です。

日本人	16	18	16	15	65
京大生	23	22	19	15	78

実は日本人の話す力は単独世界最下位で、京大生の平均もまったく同じ点です。これをなんとかするのが授業の目的ですが、以下の事実を先ず確認してください。(http://aoitani.net/Eigo_Dekinai.mhtml)

- 小学校 1 年からアメリカの学校に入る移民の子供は、4 年から 7 年でやっと授業に支障の無い英語力 (ネイティブではない) になる。中学卒業時にネイティブ並みにならない人もいる。

Hakuta, K. (2000). How long does it take English learners to attain proficiency. Policy Reports. Retrieved from <http://escholarship.org/uc/item/13w7m06g>

- 現地に留学し週 17 時間の授業を 13 週間受けても、5 割程度は目立った上達をしない。

Segalowitz, N., Freed, B., Collentine, J., Lafford, B., Lazar, N., & Diaz-Campos, M. (2004). A comparison of Spanish second language acquisition in two different learning contexts: Study abroad and the domestic classroom. *Frontiers Journal*, 10, 1-18.

- 10%の海外研修参加者の会話力は低下。24%は変わらなかった。国内で何年も学んでも、中級の中から上で進歩が止まっている人が多い。

Berg, M. V., Connor-Linton, J., & Paige, R. M. (2009). The Georgetown Consortium Project: Interventions for student learning abroad. *Frontiers Journal*, 18, 1-75.

以上の様に、なかなか伸びないのは完全に想定内です。そもそも英語が本当に

出来るとは英語で考えられるということですが、こんな奇跡のようなことが、そんなに簡単にできるわけではありません。目安は10年です。

と言う訳で、今すぐに始めて永遠にやり続けます！

実際には、

- ・講義の大半は、実際のスピーキング練習や能力測定の為のテストです。しかし、
- ・四技能を同時に高める事によってのみ英語運用力が身に付くので、原則として聴解・読解・作文・会話を全部やるつもりです。

- ・講義中に上達するのではなく、講義で得た物を踏み台として、自ら講義外で訓練に励んでこそ、真の上達が有ると考えて下さい。なんと云っても、一年に100万語とか、習熟に10年とか言われる中で、一学期間の講義だけでは圧倒的に不十分なのは明らかでしょう。クラス外でも、またクラスが終わった後も、自分で学習を続ける事が肝要なので、その為のサポートもします。

- ・「技能科目としての英語」「英語力が欲しければ英語の勉強力をつけよ」「英語学習の三つの螺旋構造」「読む書く聴く話す：四技能の総合的養成」などが骨子になります。しかし、毎日の練習時間と練習量の確保が無ければ絶対に上達しません。

- ・僕の海外の大学院についての講義や英語関連の講義の統一テーマは「国際性」です。身につけた英語力と国際感覚を駆使して活躍していただくのが目標なので、ステップゼロの英語で躓（つまず）かないでください。

授業計画と内容

参加者のレベルが揃っている方が効率学習が出来るので、練習内容・方法を上級と中級に分けていますが、教材その物の形式は基本的に同じです。

「全体説明」（1,2回の予定：全て授業時間中です。）

第1回目の授業で、日本人・京大生の英語力やそれに合わせた運用力の養成法、更には講義の概要の説明をします。必ず出席して下さい。その後、最初の数回で現段階での英語力を測定するテストをし、グループ分けをして練習します。練習はスピーキングが中心で、一人でしゃべる物と二人で練習する物があります。

「技能科目としての英語」：青谷の若い頃には無かった英語学習の方法論を実習を通じて学びます。

実際の訓練は以下の様になります。（恒常的に改善中です。実例はカッコ内の Web site を見てください。但し、量が膨大ですので、自分で全部見ると言うよりは、サンプリング程度にとどめ、一回目の講義で概要の説明を聞く時の準備程度に留められることをお勧めします。）

A. 独話：短いお題（例：一番辛かったこと）を与えられ、15秒考えて45秒間一人でしゃべります。（http://aoitani.net/TOEFL_Speech/TOEFL_Speaking.doc）

B. 会話：短い話題（例：京大の何を変えたいか）につき、2分から3分でペアで会話をします。（http://aoitani.net/TOEFL_Speech/Conversation_Questions.doc）

C. ディクテーション：普通は英語を聞いて書き留める物ですが、ノーマルスピードの定時ニュース（日本でもある2時の5分間ニュースとか、そういう類）は、殆どのみなさんの手に負えないので、皆さんが聞き、僕が黒板にディクテーションをします。

D. 意識・略訳・概訳・近似訳の訓練：大学生が日常生活で普通に使う日本語の短文（例：多数決は常に正しいのかどうかは、議長にとって頭の痛い問題である）の意味の概略を10秒ほどで、現有戦力の英語力で言い切ります。当然、意味は近似しかできません。流暢さ養成の訓練であって、正確な翻訳の訓練ではないのです。Quick and dirty（質を犠牲にしても速くやること）を旨とした訓練で、やる時には関連した6文を60秒でやる場合が多いです。

（http://aoitani.net/Q_D_Trans_1.doc http://aoitani.net/Q_D_Trans_2.doc）

E. アメリカの大学生用の作文トピックの利用：トピックそのもの（通常5行以内）をreadingとlisteningに用いた後、2分間日本語で議論をし、2分間英語で議論をし、それに基いてあい方に3分で自分の意見をまとめて言います。『人は少数の人に影響されて人格形成をすると信じるが、実際には社会全体・人類の歴史全体が人を作るのではないか』とか、ハイレベルの物が多いです。

（http://aoitani.net/GRE_topics.doc）

F. 前回の作文の宿題のトピックについて、つまり既に書いた作文の内容等を思い出しながら、今度は口頭で2,3分パートナーと会話をします。

（http://aoitani.net/TOEFL_Speech/TOEFL_Writing_Topics.doc）

成績評価の方法・基準

中間・期末試験は有りませんが、出席だけは非常に重んじます。毎回授業に出席し、宿題をやり、数種の能力測定テスト（成績評価にも関係し、僕にも将来の京大生にも非常に役立ちます。講義中に行います）を全て受ける事が単位取

得の最低条件です。

その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）

担当教員は、1978年京大理学部卒。大学院在学中（一回生の途中）に渡米し、米国に20年滞在。十年前に京大に戻り、現在は国際教育プログラム等の担当。多分変人ですが善人です。尚、一部茶髪等、見かけは若そうですが、実は考え方は完全にオジンです。昭和29年（敗戦屈辱の昭和20年代）生まれですから、これは仕方が有りませんね。なにしろ、皆さんのお父さんの年齢なのですから。

「信義」などと言う言葉が出て来ても驚かない様にして下さい。それから「大学は天地の真理を追究する所」（つまり、単なる職業訓練所ではない）というのが僕の基本スタンスです。『小・中・高の学生や一般社会人がやってはいけないことは、当然大学生・大学院生もやってはいけない』ので、無断欠席・遅刻・授業中の私語には本気で怒ります。更に、『恥部も患部も曝（さら）け出し、敢然とその解決・改善にあたる』主義ですので、自分自身についても日本人全般についても、欠陥でも何でも、事実であればその通りそのまま述べます。当然、個人情報保護法に抵触したりすると駄目ですが、留学経験等々も含めた日本人の国際性の無さを示すデータや事例、京大生も日本人も英語力が世界最低レベルである事を示すデータ・テストスコア

(http://aoitani.net/Eigo_Sekai_Saitei.mhtml)、先進47経済圏で最下位の47位にランク付けされている日本の大学教育（研究ではありません）の現状

(<http://aoitani.net/47th.pdf>)、授業料を差し引いても一人頭133万円かかる京大生の教育費

(http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/issue/financial_report/documents/2010/financial_2010_d07.pdf 12ページ)

等は、個人情報にはあたりませんね。自分自身についても、青谷の間違いだらけの英作文の公開

(http://aoitani.net/Essay_Corrections/Masayasu_AOTANI.doc)

など、ちゃんと恥部も幹部も曝け出しています。事実を鋭い目で見つめ、有りの儘に描写するという姿勢は、学者としてはあまりにもあたりまえですが、そう言う真っ直ぐな態度が鼻につく人は、最初から来ないで下さい。

履修要件

一回目の授業への出席と、実力測定のためのテストの皆受験が必須です。更に、病気や事故等を除き、講義にすべて出席する事、正当な理由が有っても事前（事後に非ず。事後報告は破門）報告無しには欠席しない事、TOEIC・TOEFLを受けたら結果を報告する事などの条件があります。詳細は授業で説明しますが、一言で言うと『真摯な態度で授業に取り組み、小中高の学生や社会人がやらない事は大学生もしない』に集約されます。たとえば無断欠席なんて、しないの

が社会の常識ですし、非常事態でなければ、欠席の際の事前報告はあまりにも当然です。尤も、なかなか出来ない英語、一筋縄ではいかない英語を、やってやってやり倒す気概があれば、後は自然についてくるでしょう。

教科書

使用しない。授業中の **handout** (配布物) とネット上の教材のみ。
講義や練習の内容は、一部下記の参考書に基付いていますが、教科書は有りません。

参考書等

青谷正妥 (あおたにまさやす) 『英語勉強力』 (DHC 出版)
あくまでも参考書であって、買う必要は全く有りません。むしろ授業を取れない人が読むべきですね。因みに僕の印税は 0% です。本当です。
それから、DHC は例の化粧品の会社ですが、元々は出版や翻訳から始まった会社です。なにしろ、DHC は Da いがく Ho んやく Center (大学翻訳センター) を意味するのですから。これも本当ですよ！

関連 URL

<http://aoitani.net/>

(科目名) 科学記事で英語の四技能を高める 上級I (英訳) Science Today, Science Tomorrow: Advanced I	(群) A 群 (単位数) 2 単位 (開講期) 前期 (週コマ数) 1 コマ
(所属部局)(職 名)(氏 名) 国際交流センター 准教授 青谷 正妥 (あおたにまさやす)	(授業形態) 講義 (対象回生) 全回生 (対象学生) 全学向 (曜時限) 月 5 (教室) 国際交流センター-KUINEP 講義室

授業の概要・目的

【講義全体の目的】：略歴にあるように、講師は本学理学部出身で理系ですが、これはサイエンスの講義ではありません。英語力をつける講義です。よって講義全体の目的は以下のとおりです。

0. それぞれの専門分野で活躍出来るよう、英語の四技能の養成を図る

という大目標達成のために、

1. 大人の英語学習・教育の特性を理解し、
2. 具体例を見て勉強の仕方を学び、
3. もちろん講義内でも練習を重ね、
4. あくなき効果と効率の追求の中で、
5. みずからの学びを作り、

A. 英語学習・教育の難しさの理解を、

B. 途中でくじけない『ハートの強さ』につなげる事。

再確認するまでもありませんが、『言うは易く行うは難し。』

中級と上級の違いは受講者の英語のレベル、上級Ⅰと上級Ⅱの違いは教材です。もともと、英語のレベルの差は僅少なので、中級・上級どちらを取るとしても、それほど気にする必要は無いでしょう。

(この syllabus の締め切りは 01/24/2011 でしたが、毎月講義の内容を検証し、恒常的・連続的にやり方を改善しています。完全に内容が変わる事はありませんが、

<http://aoitani.net/aotani-KKyoto.html> や国際交流センターの青谷研究室のすぐ外の掲示によって、最新版をチェックし続けて下さい。)

【長文ですが、*必ず*全体を読んでください。そして納得尽くまで講義を取ってください。】

最初にこういう講義をやる資格と言いますか、講師の紹介をしておきます。

講師の青谷正妥（あおたにまさやす）は学士が京都大学理学部（化学）、修士がニューヨーク市立大学（数学）、一つ目の博士号（Ph.D.；理学博士）がカリフォルニア大学バークレー校の数学、二つ目の博士号（Ed.D.；教育学博士。但し、正式な授与は学年が終わる 2011 年 5 月 13 日です）がテンプル大学（フィラデルフィアにあるペンシルバニア州の公立大学。大阪分校があります）の第二言語習得（要するに外国語学習・教育）です。1979 年京都大学理学部大学院（当時は理学研究科と言う名前はありませんでした）1 回生の途中で渡米し、20 年間アメリカで生活。首都ワシントン、ニューヨーク、サンフランシスコ等東西海岸の主要都市で、メリーランド大学、プリンストン大学、ニューヨーク市立大学、カリフォルニア大学バークレー校、サンフランシスコ州立大学と 5 つの大学院に在籍。在米中、プリンストン大学、カリフォルニア大学、MIT を含む 4 短大・11 大学で教鞭を執り、化学・生物学・数学・統計学・物理学・天文学・日本語・経営学・電子工学・コンピューターの講義を担当。又十年間企業にて広報・研修等に従事、シリコンバレーでも勤務。化学より物理・数学へと二十一年間で化学者から数学者に変身。最近は英語教育にも力を入れており、英語力に関しては、1978 年から英語検定 1 級、現在は TOEIC・TOEFL CBT・TOEFL iBT が満点です。*しかし*、これを見てください。
(http://aoitani.net/Eigo_Taihen.mhtml)

さて、講義の『科学』の部分ですが、

- ・基礎的英語運用力の土台を築き、専門英語に繋げる講義です。
- ・科学に限らず専門分野のみに特化した英語力と言う物は実は存在せず、専門英語＝一般英語力＋専門知識です。
- ・これは英語のクラスですので、特に『一般英語力』の養成に力を入れます。
- ・科学と言っても内容は多岐に渡るので、専門性の高い物は扱えませんが、文系・理系を問わず、京大生全員の最大公約数としての、高校レベルの数学と理科の英語には力を入れます。

・高校の基礎的な数学や理科の教科書の内容が英語で言える様、単語や表現を覚えて貰います。文系の人でも、 a の b 乗（例えば、 a to the power of b ）とかナトリウム（英語では sodium）とか、それぐらいは言えるべきです。アメリカの大卒は、誰でも当然言えますから。ただし、これは授業でやるのではなく、配布教材での自習です。

次は『英語』の部分。

好きでも嫌いでも、とにかく必要な英語。小・中・高で培った基礎力を元に、大学以降の応用編をどうするか。日本人が世界最低と言われるスピーキング、最後まで完璧には出来ないリスニングを始め、総合的英語力養成のための指針を与えます。最初が肝腎です！渾身の努力が必要なので、当然怠け者には不向き。

著書『英語勉強力』（2005年10月、DHC出版事業部）にも一部基づいて、英語の運用能力を付けるとはどういう事か、大人の英語学習とは何かと言った理念的な内容から始め、第二言語習得の最近の研究に基づいた英語学習の実際を総合的に説明し、効果と効率を追窮した理詰めの英語運用力の養成を行います。

日本人の大半がそうですが、たとえば京大生の場合、やるべき事が大きく分けて二つあります。

1. 単語力・表現力・発音力等々、英語の基礎能力そのものを高める。
2. 既存の能力の流暢な使用力を高める。

1については、たとえば京大生の典型的な単語力は4000語レベルと言われていますが、日常使用に必要な語彙数は7000から9000語。この1万語レベルの語彙は様々な表現に使用できる深みの有る相互に有機的に繋がったものでなければなりません。この力は圧倒的にインプット処理、日本人の場合には英語を読む事で培われます。ネイティブの書いた英語に触れる事で、新しい単語や表現、既知の単語の新しい使用法を学ぶのです。

2については、書いたり話したりするアウトプット訓練が効果的です。インプット処理とは比較にならないほど言語に集中するのがアウトプットですから、読んだり聞いたりするだけでは気付かない弱点に気づき、文字通り『英語をあやつる』力が身に付くのです。自ら使える英語力が高まれば、ネイティブスピー

カーが英語をどう使うかも理解できるようになり、それによりインプット処理能力がまた高まるという雪だるま現象・相乗効果が起こります。

インプットについては、一年に 100 万語レベル (A4 だと普通の書き方で大体毎日 6.5 ページくらいです) の英語に触れる必要があるうえ、たとえば教室で全員が黙々と読んでいるというのも変な図ですから、授業では圧倒的にスピーキングの練習を行います。アウトプット力に牽引されて英語の運用力全体が向上するのが理想なのに、下を見てください。TOEFL iBT という国際的な英語の標準テストにおける日本人と京大生の平均成績です。(京大生は僕がつかんでいる範囲の人達です。) 左から、読む・書く・聴く・話す力 (各 30 点満点) です。

日本人	16	18	16	15	65
京大生	23	22	19	15	78

実は日本人の話す力は単独世界最下位で、京大生の平均もまったく同じ点です。これをなんとかするのが授業の目的ですが、以下の事実を先ず確認してください。(http://aoitani.net/Eigo_Dekinai.mhtml)

- 小学校 1 年からアメリカの学校に入る移民の子供は、4 年から 7 年でやっと授業に支障の無い英語力 (ネイティブではない) になる。中学卒業時にネイティブ並みにならない人もいる。

Hakuta, K. (2000). How long does it take English learners to attain proficiency. Policy Reports. Retrieved from <http://escholarship.org/uc/item/13w7m06g>

- 現地に留学し週 17 時間の授業を 13 週間受けても、5 割程度は目立った上達をしない。

Segalowitz, N., Freed, B., Collentine, J., Lafford, B., Lazar, N., & Diaz-Campos, M. (2004). A comparison of Spanish second language acquisition in two different learning contexts: Study abroad and the domestic classroom. *Frontiers Journal*, 10, 1-18.

- 10%の海外研修参加者の会話力は低下。24%は変わらなかった。国内で何年も学んでも、中級の中から上で進歩が止まっている人が多い。

Berg, M. V., Connor-Linton, J., & Paige, R. M. (2009). The Georgetown Consortium Project: Interventions for student learning abroad. *Frontiers Journal*, 18, 1-75.

以上の様に、なかなか伸びないのは完全に想定内です。そもそも英語が本当に

出来るとは英語で考えられるということですが、こんな奇跡のようなことが、そんなに簡単にできるわけではありません。目安は10年です。

と言う訳で、今すぐに始めて永遠にやり続けます！

実際には、

- ・講義の大半は、実際のスピーキング練習や能力測定の為のテストです。しかし、
- ・四技能を同時に高める事によってのみ英語運用力が身に付くので、原則として聴解・読解・作文・会話を全部やるつもりです。

- ・講義中に上達するのではなく、講義で得た物を踏み台として、自ら講義外で訓練に励んでこそ、真の上達が有ると考えて下さい。なんと云っても、一年に100万語とか、習熟に10年とか言われる中で、一学期間の講義だけでは圧倒的に不十分なのは明らかでしょう。クラス外でも、またクラスが終わった後も、自分で学習を続ける事が肝要なので、その為のサポートもします。

- ・「技能科目としての英語」「英語力が欲しければ英語の勉強力をつけよ」「英語学習の三つの螺旋構造」「読む書く聴く話す：四技能の総合的養成」などが骨子になります。しかし、毎日の練習時間と練習量の確保が無ければ絶対に上達しません。

- ・僕の海外の大学院についての講義や英語関連の講義の統一テーマは「国際性」です。身につけた英語力と国際感覚を駆使して活躍していただくのが目標なので、ステップゼロの英語で躓（つまず）かないでください。

授業計画と内容

参加者のレベルが揃っている方が効率学習が出来るので、練習内容・方法を上級と中級に分けていますが、教材その物の形式は基本的に同じです。

「全体説明」（1,2回の予定：全て授業時間中です。）

第1回目の授業で、日本人・京大生の英語力やそれに合わせた運用力の養成法、更には講義の概要の説明をします。必ず出席して下さい。その後、最初の数回で現段階での英語力を測定するテストをし、グループ分けをして練習します。練習はスピーキングが中心で、一人でしゃべる物と二人で練習する物があります。

「技能科目としての英語」：青谷の若い頃には無かった英語学習の方法論を実習を通じて学びます。

実際の訓練は以下の様になります。（恒常的に改善中です。実例はカッコ内の Web site を見てください。但し、量が膨大ですので、自分で全部見ると言うよりは、サンプリング程度にとどめ、一回目の講義で概要の説明を聞く時の準備程度に留められることをお勧めします。）

A. 独話：短いお題（例：一番辛かったこと）を与えられ、15秒考えて45秒間一人でしゃべります。（http://aoitani.net/TOEFL_Speech/TOEFL_Speaking.doc）

B. 会話：短い話題（例：京大の何を変えたいか）につき、2分から3分でペアで会話をします。（http://aoitani.net/TOEFL_Speech/Conversation_Questions.doc）

C. ディクテーション：普通は英語を聞いて書き留める物ですが、ノーマルスピードの定時ニュース（日本でもある2時の5分間ニュースとか、そういう類）は、殆どのみなさんの手に負えないので、皆さんが聞き、僕が黒板にディクテーションをします。

D. 意識・略訳・概訳・近似訳の訓練：大学生が日常生活で普通に使う日本語の短文（例：多数決は常に正しいのかどうかは、議長にとって頭の痛い問題である）の意味の概略を10秒ほどで、現有戦力の英語力で言い切ります。当然、意味は近似しかできません。流暢さ養成の訓練であって、正確な翻訳の訓練ではないのです。Quick and dirty（質を犠牲にしても速くやること）を旨とした訓練で、やる時には関連した6文を60秒でやる場合が多いです。

（http://aoitani.net/Q_D_Trans_1.doc http://aoitani.net/Q_D_Trans_2.doc）

E. アメリカの大学生用の作文トピックの利用：トピックそのもの（通常5行以内）をreadingとlisteningに用いた後、2分間日本語で議論をし、2分間英語で議論をし、それに基いてあい方に3分で自分の意見をまとめて言います。『人は少数の人に影響されて人格形成をすると信じるが、実際には社会全体・人類の歴史全体が人を作るのではないか』とか、ハイレベルの物が多いです。

（http://aoitani.net/GRE_topics.doc）

F. 前回の作文の宿題のトピックについて、つまり既にかいた作文の内容等を思い出しながら、今度は口頭で2,3分パートナーと会話をします。

（http://aoitani.net/TOEFL_Speech/TOEFL_Writing_Topics.doc）

成績評価の方法・基準

中間・期末試験は有りませんが、出席だけは非常に重んじます。毎回授業に出席し、宿題をやり、数種の能力測定テスト（成績評価にも関係し、僕にも将来の京大生にも非常に役立ちます。講義中に行います）を全て受ける事が単位取

得の最低条件です。

その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）

担当教員は、1978年京大理学部卒。大学院在学中（一回生の途中）に渡米し、米国に20年滞在。十年前に京大に戻り、現在は国際教育プログラム等の担当。多分変人ですが善人です。尚、一部茶髪等、見かけは若そうですが、実は考え方は完全にオジンです。昭和29年（敗戦屈辱の昭和20年代）生まれですから、これは仕方が有りませんね。なにしろ、皆さんのお父さんの年齢なのですから。

「信義」などと言う言葉が出て来ても驚かない様にして下さい。それから「大学は天地の真理を追究する所」（つまり、単なる職業訓練所ではない）というのが僕の基本スタンスです。『小・中・高の学生や一般社会人がやってはいけないことは、当然大学生・大学院生もやってはいけない』ので、無断欠席・遅刻・授業中の私語には本気で怒ります。更に、『恥部も患部も曝（さら）け出し、敢然とその解決・改善にあたる』主義ですので、自分自身についても日本人全般についても、欠陥でも何でも、事実であればその通りそのまま述べます。当然、個人情報保護法に抵触したりすると駄目ですが、留学経験等々も含めた日本人の国際性の無さを示すデータや事例、京大生も日本人も英語力が世界最低レベルである事を示すデータ・テストスコア

（http://aoitani.net/Eigo_Sekai_Saitei.mhtml）、先進47経済圏で最下位の47位にランク付けされている日本の大学教育（研究ではありません）の現状（<http://aoitani.net/47th.pdf>）、授業料を差し引いても一人頭133万円かかる京大生の教育費

（http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/issue/financial_report/documents/2010/financial_2010_d07.pdf 12ページ）
等は、個人情報にはあたりませんね。自分自身についても、青谷の間違いだらけの英作文の公開

（http://aoitani.net/Essay_Corrections/Masayasu_AOTANI.doc）
など、ちゃんと恥部も幹部も曝け出しています。事実を鋭い目で見つめ、有りの儘に描写するという姿勢は、学者としてはあまりにもあたりまえですが、そう言う真っ直ぐな態度が鼻につく人は、最初から来ないで下さい。

履修要件

一回目の授業への出席と、実力測定のためのテストの皆受験が必須です。更に、病気や事故等を除き、講義にすべて出席する事、正当な理由が有っても事前（事後に非ず。事後報告は破門）報告無しには欠席しない事、TOEIC・TOEFLを受けたら結果を報告する事などの条件があります。詳細は授業で説明しますが、一言で言うと『真摯な態度で授業に取り組み、小中高の学生や社会人がやらない事は大学生もしない』に集約されます。たとえば無断欠席なんて、しないの

が社会の常識ですし、非常事態でなければ、欠席の際の事前報告はあまりにも当然です。尤も、なかなか出来ない英語、一筋縄ではいかない英語を、やってやってやり倒す気概があれば、後は自然についてくるでしょう。

教科書

使用しない。授業中の **handout** (配布物) とネット上の教材のみ。
講義や練習の内容は、一部下記の参考書に基付いていますが、教科書は有りません。

参考書等

青谷正妥 (あおたにまさやす) 『英語勉強力』 (DHC 出版)
あくまでも参考書であって、買う必要は全く有りません。むしろ授業を取れない人が読むべきですね。因みに僕の印税は 0% です。本当です。
それから、DHC は例の化粧品の会社ですが、元々は出版や翻訳から始まった会社です。なにしろ、DHC は Da いがく Ho んやく Center (大学翻訳センター) を意味するのですから。これも本当ですよ！

関連 URL

<http://aoitani.net/>

(科目名) アメリカの大学院 I (英訳) Graduate Education in the United States I	(群) A 群 (単位数) 2 単位 (開講期) 前期 (週コマ数) 1 コマ (授業形態) 講義 (対象回生) 全回生 (対象学生) 全学向 (曜時限) 水 5 (教室) 国際交流センター-KUINEP 講義室
(所属部局)(職 名)(氏 名) 国際交流センター 准教授 青谷 正妥 (あおたにまさやす)	

授業の概要・目的

【総論的大目標】： 似て非なる教育システムの学習を通じて世界観を広げる

【各論的目標】： アメリカの大学院について、日本と比較して検証・学習する

前期 (I) は主にアメリカの大学院に入学するまでのお話で、後期 (II) はアメリカの大学院に入学してから卒業・就職するまでのお話です。

『長文ですが、*必ず*全体を読んでください。そして納得尽くで講義を取ってください。』

最初にこういう講義をやる資格と言いますか、講師の紹介をしておきます。

講師の青谷正妥（あおたにまさやす）は学士が京都大学理学部（化学）、修士がニューヨーク市立大学（数学）、一つ目の博士号（Ph.D.；理学博士）がカリフォルニア大学バークレー校の数学、二つ目の博士号（Ed.D.；教育学博士。但し、正式な授与は学年が終わる 2011 年 5 月 13 日です）がテンプル大学（フィラデルフィアにあるペンシルバニア州の公立大学。大阪分校があります）の第二言語習得（要するに外国語学習・教育）です。1979 年京都大学理学部大学院（当時は理学研究科と言う名前はありませんでした）1 回生の途中で渡米し、20 年間アメリカで生活。首都ワシントン、ニューヨーク、サンフランシスコ等東西海岸の主要都市で、メリーランド大学、プリンストン大学、ニューヨーク市立大学、カリフォルニア大学バークレー校、サンフランシスコ州立大学と 5 つの大学院に在籍。在米中、プリンストン大学、カリフォルニア大学、MIT を含む 4 短大・11 大学で教鞭を執り、化学・生物学・数学・統計学・物理学・天文学・日本語・経営学・電子工学・コンピューターの講義を担当。又十年間企業にて広報・研修等に従事、シリコンバレーでも勤務。化学より物理・数学へと二十

年間で化学者から数学者に変身。最近は英語教育にも力を入れており、英語力に関しては、1978年から英語検定1級、現在はTOEIC・TOEFL CBT・TOEFL iBTが満点です。

さて、実際の講義内容です。

描写と事例の提示が中心ですが、留学希望・海外居住計画の有無にかかわらず、京大生の国際感覚養成・知識拡充と思考材料の提供という目標は、これで十分に達成できるはずです。

前期は主にアメリカの大学院に入学するまでの御話です。

- ・日米大学・大学院教育比較
- ・アメリカの大学院入学に必要な書類等とその準備
- ・留学に必要なテストとその準備
- ・アメリカの大学院の教育制度
- ・英語学習法

等を、講師自身の体験を踏まえてお話しします。実態を掴む為の、ケーススタディ（実際の例を見る事）もします。

アメリカの大学院は、システムとして整備された世界最初の、そして世界最高レベルの教育研究体系だと言われ、本気で勉強・研究させる、またそのためのサポートを全力でする体制が整っています。自他共に認めていることですが、実はアメリカの小・中・高の教育は、数学・理科教育に代表されるように、おむねデタラメで、大学で普通の微積分（ x の微分とかです）を教えています。

しかし、その反面大学以上の高等教育は世界の模範とされ、留学希望者ではなくても、学生でも教員でも、そこから学ぶべきことが山ほどあるのです。たとえば、高校終了時点では、日本の高校生の学力の平均はアメリカ人が唾然とするほどの高さです。勉強であれば、東大生や京大生は Harvard や Princeton の平均的な学部生に、勝負が始まらないと言ってよいくらいのボロ勝ち状態なのです。

それなのに、学部が終わる頃にはかなり学力が接近し、大学院で博士を取る頃には日本のレベルに追いついてしまうアメリカ。こういうシステムを学ばない

手は有りません。因みに大学院の授業でも毎週採点してくれる宿題があり、中間試験と期末試験があって、普通に成績がついて、出来なければクビです。通常の研究がある上でこれです。『縛りが無ければ人は怠ける』との当然の考え・事実認識が底流にあるからでしょう。

更に、

- 少なくとも上位校から中堅校では、大学院生全員に生活費・健康保険・授業料免除があるとか、
- 工学・農学・薬学等の応用科学系でも博士が有った方が企業への就職がよく、年俸も生涯賃金も多いとか、
- 修士と博士は積み上げではなく、原則2年間の修士課程（修士だけで終わる課程です。博士前期課程ではありません）と5,6年かかる博士課程（修士を経ず博士だけを取る事ができる課程です）の並列式であるとか、
- 多分以上の理由で、博士課程だけを持っている研究科が、特にトップ校では大変多いとか、

そういう違いも、日本しか知らなければ分らないでしょう。

最後に付け足しになりますが、TOEIC・TOEFL 満点でもまったく問題外の僕の英語力の話は、大事な付録です。（http://aoitani.net/Eigo_Taihen.mhtml）

授業計画と内容

日米比較：1週

なぜアメリカの大学院か：1週

アメリカの大学院の教育制度：1週

奨学金：2週

必要書類と準備：3週

特に大切な書類：2週

留学に必要なテストと準備：2週

大人の英語学習とは・三つの螺旋・四技能の総合的養成：1週

（1週、2週等と書かれて居るのは、大体の目安に過ぎません。厳密に内容を週単位で分割する事は不可能です。）

成績評価の方法・基準

毎回出席を原則とし、出席点と term paper（いわゆるレポートですが、英語で report と言うと意味が違います）で点を付けます。Term paper のトピックは、自

分に役立つ物や、自分が興味を持って居る物を、教員と相談の上で選択します。自分自身のリサーチに基いた、アメリカ式の真っ当な **term paper** しか受け付けませんので、講義で得られる情報のみが必要で単位のいらぬ人は国際交流センターの多文化交流科目として登録して下さい。

その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等)

担当教員は、1978 年京大理学部卒。大学院在学中 (一回生の途中) に渡米し、米国に 20 年滞在。十年前に京大に戻り、現在は国際教育プログラム等の担当。多分変人ですが善人です。尚、一部茶髪等、見かけは若そうですが、実は考え方は完全にオジンです。昭和 29 年 (敗戦屈辱の昭和 20 年代) 生まれですから、これは仕方が有りませんね。なにしろ、皆さんのお父さんの年齢なのですから。

「信義」などと言う言葉が出て来ても驚かない様にして下さい。それから「大学は天地の真理を追究する所」(つまり、単なる職業訓練所ではない) というのが僕の基本スタンスです。『小・中・高の学生や一般社会人がやってはいけないことは、当然大学生・大学院生もやってはいけない』ので、無断欠席・遅刻・授業中の私語には本気で怒ります。更に、『恥部も患部も曝 (さら) け出し、敢然とその解決・改善にあたる』主義ですので、自分自身についても日本人全般についても、欠陥でも何でも、事実であればその通りそのまま述べます。当然、個人情報保護法に抵触したりすると駄目ですが、留学経験等々も含めた日本人の国際性の無さを示すデータや事例、京大生も日本人も英語力が世界最低レベルである事を示すデータ・テストスコア (http://aoitani.net/Eigo_Sekai_Saitai.mhtml)、先進 47 経済圏で最下位の 47 位にランク付けされている日本の大学教育 (研究ではありません) の現状 (<http://aoitani.net/47th.pdf>)、授業料を差し引いても一人頭 133 万円かかる京大生の教育費

(http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/issue/financial_report/documents/2010/financial_2010_d07.pdf 12 ページ)

等は、個人情報にはあたりませんね。自分自身についても、青谷の間違いだらけの英作文の公開

(http://aoitani.net/Essay_Corrections/Masayasu_AOTANI.doc)

など、ちゃんと恥部も幹部も曝け出しています。事実を鋭い目で見つめ、有りの儘に描写するという姿勢は、学者としてはあまりにもあたりまえですが、そう言う真っ直ぐな態度が鼻につく人は、最初から来ないで下さい。

履修要件

誰でも登録出来ますが、一回目の授業への出席が必要です。*事前*に理由説明の無い欠席をする人、理由にならない理由の人は単位がありません。情報のみが必要で単位のいらぬ人は国際交流センターの多文化交流科目として登録

して下さい。

教科書

授業中のハンドアウト（配布物）のみです。

参考書等

青谷正妥（あおたにまさやす）『超★理系留学术』（化学同人社）
あくまでも参考書であって、買う必要は全く有りません。むしろ授業を取れない人が読むべきですね。因みに僕の印税は0%です。本当です。

関連 URL

<http://aoitani.net/>

国際交流科目

国際交流科目は、本学学生の海外留学や海外研修を促進するために平成 17 年度に開設され、毎年提供を希望する学部・研究科あるいは研究所と国際交流センターが協力して企画する全学共通科目です。本科目は、原則として学期期間中の日本における事前講義とともに夏季休業期間中等に担当教員引率のもと海外での研修を行い、現地の自然・政治・経済・文化・歴史などの事情を学ぶことを目的としています。海外研修は、現地大学での講義受講・フィールドワーク等さまざまな形態から成り立ち、これまでの研修先は、中国・韓国・タイ・ベトナム・米国でした。

また、本科目の一環として、逆に海外の協力大学からの学生を受入れ、本学での講義や体験学習の機会を提供しています。

○授業の特色

- 1.夏季休業期間中等に集中講義として 10 日～2 週間の日程で海外での研修が行われます(ベトナム派遣は期中講義があります)。*参加費用(航空運賃・海外旅行保険料・食費・宿泊費等)は各自負担となります。
- 2.科目内容は海外での現地研修および本国での事前講義等から構成されます。
- 3.各科目は前期 2 単位で A 群科目として開設されます(ベトナムは期中講義と併せて 4 単位)。*学部により単位認定の方法が異なるので、それぞれの学部の履修要項を参照してください。

○受講資格

- 1.正規学生であること。原則 1 回生および 2 回生、定員に余裕があれば 3 回生も受講できるが 4 回生以上は受講できません。
- 2.事前講義や集まりに参加し、また先方大学から本学への学生受入の場合にも積極的に参加し協力的であること。
- 3.臨地研修活動に参加できる健康状態であること。
- 4.参加費用を工面できること。
- 5.海外滞在リスクを十分認識し自らを律することができること。

○平成 23 年度オリエンテーションの日程(受講を考えている者は出席してください)

*暮らし・環境・平和—ベトナムに学ぶ—II(ベトナム派遣)地球環境学堂 田中樹 准教授

- ①4月12日(火) 昼休み(12:10-12:50): 国際交流センターKUINEP 講義室
 - ②4月12日(火) 5限(16:30-18:00): 地球環境学舎中講義室(総合研究5号館2階)
- ①、②のいずれかに出席すればよい

*「復興」から学ぶ 21 世紀の防災と環境(米国派遣)防災研究所 林春男 教授

- 4月13日(水) 昼休み(12:10-12:50): 国際交流センターKUINEP 講義室

*変容する東南アジア—環境・生業・社会(タイ派遣)農学研究科 縄田栄治 教授

- 4月14日(木) 昼休み(12:10-12:50): 国際交流センターKUINEP 講義室

*インドシナの環境・開発とコミュニティ(ベトナム・ラオス・カンボジア派遣)

地球環境学堂 水野啓 准教授

- 4月15日(金) 昼休み(12:10-12:50): 国際交流センターKUINEP 講義室

(科目名) 理系・サイエンス英語研修プログラム (英 訳) Effective Science Communicator in a Global Society:Enrichment Program in Australia	(群) C群 (単 位 数) 1単位 (開 講 期) 後期集中 (週コマ数) 1コマ (授業形態) 演習 (外国語) (対象回生) 全回生 (対象学生) 理系向 (曜 時 限) 集中
(所 属 部 局) (職 名) (氏 名) 国際交流センター 特定助教 西川美香子	

(授業の概要・目的)
 The Effective Science Communicator in a Global Society-Enrichment Program in Australia, is a two-week intensive program which is designed for undergraduate students from Kyoto University to gain confidence in communicating on scientific topics, technological advancements, and the impacts they have on ordinary lives. Students will be able to build their English language skills in listening, reading, writing and speaking, with a strong focus on presentation skills, in order to deliver presentations to a non-scientific audience.

京都大学の協定校である、ニューサウスウェールズ大学の協力のもと開発された理系学生を対象にアカデミック・コミュニケーションスキルを養成するための2週間のプログラムである。日常生活に関わる科学技術と社会の関係について、ディスカッションを行い、学生の英語による発信力を養うプログラムである。科学分野のホット・トピックのレクチャーもあり、グループリサーチやプレゼンテーションなども行う。

研修にかかるプログラム費、往復の旅費、滞在にかかる費用は受講者の自己負担である。

このクラスを履修するものは必ずサイエンスコミュニケーター（後期）の授業を受けることが必須である。また海外渡航直前に行われるオリエンテーションにも必ず出席をすること。万一の事故に備え、参加学生は指定の海外旅行保険に加入すること。さらに京都大学としても「JCSOS緊急事故支援システム」に加入するものとする。

また伝染病、自然災害、政情など研修先の事情によりやむを得ず、海外の研修ができない、もしくは研修先が変更される場合がある。その場合の旅行代金のキャンセルなど、場合によっては支払った費用の一部が戻らない場合がある。

(授業計画と内容)
 春季休暇期間中に、オーストラリアのニューサウスウェールズ大学の協力のもと、2週間の滞在期間中に下記の内容で研修を行う。

ニューサウスウェールズ大学でのプログラム内容
 (The Effective Science Communicator in a Global Society)

1. EFL(English as a Foreign Language)
 The course content is tailored to meet the needs of the participants and will focus on all skill area of listening, speaking, reading and writing, with a strong focus on presentation skills. There will be ongoing assessment in class based on clearly focused tasks, participation in class activities, as well as homework tasks and special assignments based on a spoken

presentation on researched topics.

2. MODULE

Students will audit lectures at UNSW during semester session, and will also participate in special guest lectures on specified topics.

3. Group Research and Oral Presentation

Students will be provided a list of topics in order to commence research of the topic prior to the starting the program, and will deliver either an individual or a group presentation at the end of the course. At the successful completion of the course, students will receive a UNSW Institute of Languages certificate at a graduation ceremony.

4. Excursion

Students will also participate in a range of appropriate excursions and field trips including: The Powerhouse Museum, UNSW School of Photovoltaic and Renewable Energy Engineering, UNSW Nippon Students Association, city sights tour, Bondi to Bronte coastal walk.

5. Homestay

Homestay accommodation is available for each participating student in the program. This involves living with an Australian family, which will give a first-hand experience for students to learn Australian culture and lifestyle. It is a great opportunity for them to improve their English.

1. アカデミック・特にオーラルスキルの向上を目的とする語学研修
2. 日常生活に関わる科学技術と社会の関係するホットトピックの講義(MODULE)
3. グループリサーチ、口頭発表
4. 視察調査、フィールドトリップ
5. ホームステイ滞在

(成績評価の方法・基準)

海外研修先での評価(プレゼン発表などに基づく)および、研修後のレポートに基づき評価する。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

理系・サイエンス英語研修プログラム(3)

(履修要件)

Those students who will join this program must also register "English Communication in Scientific Inquiry."

このクラスを履修する際に必ずあわせて "English Communication in Scientific Inquiry."
(サイエンスコミュニケーター)のクラスを履修すること

本授業の海外研修は2月～3月に行う予定です。このため後期集中授業ではありますが、単位認定としては4月下旬以降となります。進級、卒業判定がかかる学生はこのことに注意すること。

本授業の単位は増加単位にはなりますが、卒業に必要な単位にはなりません。

(教科書)

未定

(参考書等)

授業中に紹介する

(関連URL)

(科目名) サイエンスコミュニケーター (英 訳) English Communication in Scientific Inquiry	(群) C群 (単 位 数) 1単位 (開 講 期) 後期 (週コマ数) 1コマ (授業形態) 演習 (外国語) (対象回生) 全回生 (対象学生) 全学向 (曜 時 限)
(所 属 部 局) (職 名) (氏 名) 国際交流センター 特定助教 西川美香子	

(授業の概要・目的)

This course is designed to help students improve mostly speaking and listening skills and enhance the study of fundamental science. By exploring different themes in science, students will develop their scientific inquiry skills and critical thinking in English. Students will have small group discussions or work in pairs throughout the course, expressing own ideas, opinions and personal experiences about topics relating to every day science.

Topics of our discussions include: life processes, the human body system, inherited vs. learned behaviors, ecosystems and biomes, renewable resources. Classes will be conducted in English.

Those students who will join the study abroad program at University of New South Wales must register this course.

(授業計画と内容)

- 第1回 Class Orientation
- 第2回 Scientific Inquiry and Inquiry Process
- 第3回 Characteristics of Living Animals: Animal Adaptations for Survival
- 第4回 Ecosystem and Changing Environment: Loss of Tropical Rain Forests
- 第5回 Earth Energy Resources: Renewable Energies and Green Technologies
- 第6回 Global Weather: Damage to Earth ' s Ozone Layer
- 第7回 Human Body: Fighting Infectious Diseases
- 第8回 Heredity: Pros and Cons about the Genetically Modified Food
- 第9回 Space Exploration: Space Junk and Satellite Pollution
- 第10回 Transportation Technology: Intelligent Transportation Systems
- 第11回 Information and Communication Technology: Computer Crime
- 第12回 Effective Presentation (1)
- 第13回 Effective Presentation (2)
- 第14回 In-class Presentation
- 第15回 In-class Prsentation

サイエンスコミュニケーター(2)

(成績評価の方法・基準)

Attendance & Participation 30%,
Weekly Homework 30%,
Short Essay 20%,
In-class Presentation 20%

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

(履修要件)

Those students who will join the study abroad program at University of New South Wales, Global must register this course.

ニューサウスウェールズ大学への短期留学を希望する人は必須のクラスとなりますので必ず履修してください。

ただし、短期留学を希望しない学生でもこのクラスの履修は可能です。

本授業の単位は増加単位にはなりませんが、卒業に必要な単位にはなりません。

(教科書)

A handout material will be provided in each class.

プリントを配付する。

(参考書等)

W. Badders, et al 『Science, level 6』 (Houghton Mifflin) ISBN:978-0-618-49228-2 (学内で貸与します。)

田地野 彰、ティム・スチュワート、デビッド・ダルスキー 『Writing for Academic Purposes』 (ひつじ書房) ISBN:978-4-89476-490-3

Betsy Cassriel and Marit ter Mate Martinsen 『Academic Connections 1』 (Pearson Longman) ISBN:9780132338431

(関連URL)

(科目名) 文系・異文化英語研修プログラム (英訳) Inside Australia: Cross-Cultural Communication Program	(群) C群 (単位数) 1単位 (開講期) 後期集中 (週コマ数) 1コマ (授業形態) 演習(外国語) (対象回生) 全回生 (対象学生) 文系向 (曜時限) 集中
(所属部局)(職名)(氏名) 国際交流センター 特定助教 西川美香子	

(授業の概要・目的)

Inside Australia: Cross-cultural Communication Program is a three-week intensive program designed for the selected Kyoto University students. The program involves a combination of English language classes, an introductory lecture on Australia's history, politics and culture, and lectures on Australia's relationship with Japan, cross-cultural communication, related site visits and Australian discussion groups.

The program will be delivered by a team of academics from the Faculty of Education and Social Works, Faculty of Arts, Faculty of Economics and Business and will include a combination of lectures, workshops, discussions and site visits.

京都大学の協定校である、シドニー大学の協力のもと、オーストラリアの歴史、政治、経済、および多様な人種からなる異文化社会について学ぶ。具体的には、異文化コミュニケーションプログラムを3週間、シドニー大学にて海外研修を行うものである。

このクラスを履修するものは必ず、異文化コミュニケーション(後期)の授業を受けることが必須である。研修にかかるプログラム費、往復の旅費、滞在にかかる費用は受講者の自己負担である。

また海外渡航直前に行われるオリエンテーションにも必ず出席をすること。万一の事故に備え、参加学生は指定の海外旅行保険に加入すること。さらに京都大学としても「JCSOS緊急事故支援システム」に加入するものとする。

また伝染病、自然災害、政情など研修先の事情によりやむを得ず、海外の研修ができない、もしくは研修先が変更される場合がある。その場合の旅行代金のキャンセルなど、場合によっては支払った費用の一部が戻らない場合がある。

(授業計画と内容)

春季休暇期間中に、オーストラリアのシドニー大学の協力のもと、3週間の滞在期間中に下記の内容で研修を行う。

シドニー大学でのプログラム内容

Inside Australia: Cross-cultural Communication

1. EFL (English as a Foreign Language)

The aim of this EFL course is to enhance overall English proficiency of students across all the macro skills: speaking, listening, reading and writing skills, as well as to develop confidence

文系・異文化英語研修プログラム(2)

in interacting with native English speakers within the broader community and academic realm using an integrated approach toward achieving optimum communicative competence.

2. Lectures

A series of discipline specific lectures will be delivered during the three week program such as 1) Overview of Australian History, Politics & Society, 2) Cross-cultural Communication, 3) Gender, communities, and belongings, and 4) Overview of Australia's economics and its relationship with Japan.

3. Australian Discussion Groups

One afternoon each week, students will participate in discussion groups which will be organized as part of the study program. Students will be divided into small groups, with each group led by a local student. The local student will facilitate an informal discussion about Australian society, culture and history, with the primary aim being to assist students practice communicating in English while meeting local students.

4. Oral Presentation

Students are expected to conduct a study and reports on Australia by oral presentations. At the successful completion of the course students will receive a certificate.

5. Site Visits

A number of site visits will be organized to complement the lecture topics. They may include: University of Sydney Heritage Tour, Historical Walking Tour of The Rocks-Australia's first colonial settlement, Guided Tour of NSW Parliament House, AusTrade-Australian Trade Commission and/or Japan External Trade Organization (JETRO) Australia, Excursion to the Australian Capital Territory, Canberra.

6. Homestay

Homestay is a great opportunity to experience life with an Australian family and gain first-hand experience of Australian culture and lifestyle. It is also a great way to improve English. Homestays are safe secure environment where students will be provided with support and assistance throughout their stays in Australia.

1. アカデミック・特にオーラルスキルの向上を目的とする語学研修
2. オーストラリアの歴史、政治、社会、異文化に関する講義 (MODULE)
3. 現地の学生とディスカッショングループを毎週開催
4. 各自でテーマを選択し、口頭発表
5. 訪問調査
6. ホームステイ滞在

文系・異文化英語研修プログラム(3)

(成績評価の方法・基準)

海外研修先での評価(プレゼン発表などに基づく)および、研修後のレポートに基づき評価する。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

(履修要件)

Those students who will join this program must also register "Cross-cultural Communication in English".

このクラスを履修する際に必ずあわせてCross-cultural Communication in English (異文化コミュニケーション)のクラスを履修すること。

本授業の海外研修は2月～3月に行う予定です。このため後期集中授業ではありますが、単位認定としては4月下旬以降となります。進級、卒業判定がかかる学生はこのことに注意すること。

本授業の単位は増加単位にはなりませんが、卒業に必要な単位にはなりません。

(教科書)

使用しない

(参考書等)

授業中に紹介する

(関連URL)

(科目名) 異文化コミュニケーション (英 訳) Cross-cultural Communication in English	(群) C群 (単 位 数) 1単位 (開 講 期) 後期
(所 属 部 局) (職 名) (氏 名) 国際交流センター 特定助教 西川美香子	(週 コ マ 数) 1コマ (授 業 形 態) 演習 (外国語) (対 象 回 生) 全回生 (対 象 学 生) 全学向 (曜 時 限)

(授 業 の 概 要 ・ 目 的)

This course is designed to help students improve mostly speaking and listening skills in a cross-cultural context, and build their confidence for further academic pursuit. By exploring different themes, students will understand how people from other countries express themselves and construct their own identities. Students will have small group discussions or work in pairs throughout the course, expressing their own ideas, opinions and personal experiences about topics relating cultural and identity issues.

Topics of our discussions include identity, values, culture shock, body language and customs, politeness, communication styles, gender and culture, social change, global community. Classes will be conducted in English.

Those students who will join the study abroad program at University of Sydney must register this course.

(授 業 計 画 と 内 容)

- 第1回 Class Orientation
- 第2回 Identity
- 第3回 Values
- 第4回 Culture Shock
- 第5回 Culture in Language
- 第6回 Body Language and Culutre
- 第7回 Individualism
- 第8回 Politeness
- 第9回 Communication Styles
- 第10回 Gender and Culture
- 第11回 Diversity
- 第12回 Social Change
- 第13回 Global Community
- 第14回 In-class presentation
- 第15回 In-class presentation

異文化コミュニケーション(2)へ続く

異文化コミュニケーション(2)

(成績評価の方法・基準)

Attendance & Participation 30%,
Weekly Homework 30%,
Short Essay 20%,
In-class Presentation 20%

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

(履修要件)

Those students who will join the study abroad program at University of Sydney must register this course.

シドニー大学への短期留学を希望する人は必須のクラスとなりますので必ず履修してください。

ただし、短期留学を予定していない学生もこのクラスを履修することは可能です。本授業の単位は増加単位にはなりませんが、卒業に必要な単位にはなりません。

(教科書)

Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, and Miyuki Iida 『Identity』 (Oxford University Press)
ISBN:13978-0-19-438574-9

Deena R. Levine M.A. and Mara B. Adelman 『Beyond Language: Corss Cultural Communication』 (Prentice Hall) ISBN:0130948551

(参考書等)

田地野 彰、ティム・スチュワート、デビッド・ダルスキー 『Writing for Academic Purposes』 (ひつじ書房) ISBN:978-4-89476-490-3

(関連URL)

(科目名) 英語の鬼 (英訳) English, English, English!	(群) A 群 (単位数) 2 単位
(所属部局)(職 名)(氏 名) 国際交流センター 准教授 青谷 正妥 (あおたにまさやす)	(開講期) 前期 (週コマ数) 1 コマ (授業形態) 講義 (対象回生) 1 回生 (対象学生) 全学向 (曜時限) 金 6 (18:15 ~ 19:45) (教室) 国際交流センター-KUINEP 講義室

キーワード
英語 / 国際 / 海外 / 留学 / 英会話
授業の概要・目的
<p>【総合的・統合的英語運用力養成の為の大学英語への導入です。】</p> <p>(この syllabus の締め切りは 01/24/2011 でしたが、毎月講義の内容を検証し、恒常的・連続的にやり方を改善しています。完全に内容が変わる事はありませんが、http://aoitani.net/aotani-KKyoto.html や国際交流センターの青谷研究室のすぐ外の掲示によって、最新版をチェックし続けて下さい。)</p> <p>【長文ですが、*必ず*全体を読んでください。そして納得尽くで講義を取ってください。】</p> <p>【特に『学生の選抜方法』のセクションを必ず読んでください。】</p> <p>最初にこういう講義をやる資格と言いますか、講師の紹介をしておきます。</p> <p>講師の青谷正妥（あおたにまさやす）は学士が京都大学理学部（化学）、修士がニューヨーク市立大学（数学）、一つ目の博士号（Ph.D. ; 理学博士）がカリフォルニア大学バークレー校の数学、二つ目の博士号（Ed.D. ; 教育学博士。但し、正式な授与は学年が終わる 2011 年 5 月 13 日です）がテンプル大学（フィラデルフィアにあるペンシルバニア州の公立大学。大阪分校があります）の第二言語習得（要するに外国語学習・教育）です。1979 年京都大学理学部大学院（当時は理学研究科と言う名前はありませんでした）1 回生の途中で渡米し、20 年間アメリカで生活。首都ワシントン、ニューヨーク、サンフランシスコ等東西海岸の主要都市で、メリーランド大学、プリンストン大学、ニューヨーク市立</p>

大学、カリフォルニア大学バークレー校、サンフランシスコ州立大学と 5 つの大学院に在籍。在米中、プリンストン大学、カリフォルニア大学、MIT を含む 4 短大・11 大学で教鞭を執り、化学・生物学・数学・統計学・物理学・天文学・日本語・経営学・電子工学・コンピューターの講義を担当。又十年間企業にて広報・研修等に従事、シリコンバレーでも勤務。化学より物理・数学へと二十一年間で化学者から数学者に変身。最近は英語教育にも力を入れており、英語力に関しては、1978 年から英語検定 1 級、現在は TOEIC・TOEFL CBT・TOEFL iBT が満点です。* しかし *、これを見てください。
(http://aoitani.net/Eigo_Taihen.mhtml)

さて、

好きでも嫌いでも、とにかく必要な英語。小・中・高で培った基礎力を元に、大学以降の応用編をどうするか。日本人が世界最低と言われるスピーキング、最後まで完璧には出来ないリスニングを始め、総合的英語力養成のための指針を与えます。最初が肝腎です！渾身の努力が必要なので、当然怠け者には不向き。

著書『英語勉強力』（2005 年 10 月、DHC 出版事業部）にも一部基づいて、英語の運用能力を付けるとはどういう事か、大人の英語学習とは何かと言った理念的な内容から始め、第二言語習得の最近の研究に基づいた英語学習の実際を総合的に説明し、効果と効率を追窮した理詰めの英語運用力の養成を行います。

日本人の大半がそうですが、たとえば京大生の場合、やるべき事が大きく分けて二つあります。

1. 単語力・表現力・発音力等々、英語の基礎能力そのものを高める。
2. 既存の能力の流暢な使用力を高める。

1 については、たとえば京大生の典型的な単語力は 4000 語レベルとされていますが、日常使用に必要な語彙数は 7000 から 9000 語。この 1 万語レベルの語彙は様々な表現に使用できる深みの有る相互に有機的に繋がったものでなければなりません。この力は圧倒的にインプット処理、日本人の場合には英語を読む事で培われます。ネイティブの書いた英語に触れる事で、新しい単語や表現、既知の単語の新しい使用法を学ぶのです。

2については、書いたり話したりするアウトプット訓練が効果的です。インプット処理とは比較にならないほど言語に集中するのがアウトプットですから、読んだり聞いたりするだけでは気付かない弱点に気づき、文字通り『英語をあやつる』力が身に付くのです。自ら使える英語力が高まれば、ネイティブスピーカーが英語をどう使うかも理解できるようになり、それによりインプット処理能力がまた高まるという雪だるま現象・相乗効果が起こります。

インプットについては、一年に100万語レベル（A4だと普通の書き方で大体毎日6.5ページくらいです）の英語に触れる必要があるうえ、たとえば教室で全員が黙々と読んでいるというのも変な図ですから、授業では圧倒的にスピーキングの練習を行います。アウトプット力に牽引されて英語の運用力全体が向上するのが理想なのに、下を見てください。TOEFL iBTという国際的な英語の標準テストにおける日本人と京大生の平均成績です。（京大生は僕がつかんでいる範囲の人達です。）左から、読む・書く・聴く・話す力（各30点満点）です。

日本人	16	18	16	15	65
京大生	23	22	19	15	78

実は日本人の話す力は単独世界最下位で、京大生の平均もまったく同じ点です。これをなんとかするのが授業の目的ですが、以下の事実を先ず確認してください。（http://aoitani.net/Eigo_Dekinai.mhtml）

- 小学校1年からアメリカの学校に入る移民の子供は、4年から7年でやっと授業に支障の無い英語力（ネイティブではない）になる。中学卒業時にネイティブ並みにならない人もいる。

Hakuta, K. (2000). How long does it take English learners to attain proficiency. Policy Reports. Retrieved from <http://escholarship.org/uc/item/13w7m06g>

- 現地に留学し週17時間の授業を13週間受けても、5割程度は目立った上達をしない。

Segalowitz, N., Freed, B., Collentine, J., Lafford, B., Lazar, N., & Diaz-Campos, M. (2004). A comparison of Spanish second language acquisition in two different learning contexts: Study abroad and the domestic classroom. *Frontiers Journal*, 10, 1-18.

- 10%の海外研修参加者の会話力は低下。24%は変わらなかった。国内で何年も学んでも、中級の中から上で進歩が止まっている人が多い。

Berg, M. V., Connor-Linton, J., & Paige, R. M. (2009). The Georgetown Consortium Project: Interventions for student learning abroad. *Frontiers Journal*, 18, 1-75.

以上の様に、なかなか伸びないのは完全に想定内です。そもそも英語が本当に出来るとは英語で考えられるということですが、こんな奇跡のようなことが、そんなに簡単にできるわけがありません。目安は10年です。

と言う訳で、今すぐに始めて永遠にやり続けます！

実際には、

- ・講義の大半は、実際のスピーキング練習や能力測定の為のテストです。しかし、
- ・四技能を同時に高める事によってのみ英語運用力が身に付くので、原則として聴解・読解・作文・会話を全部やるつもりです。

- ・講義中に上達するのではなく、講義で得た物を踏み台として、自ら講義外で訓練に励んでこそ、真の上達が有ると考えて下さい。なんと言っても、一年に100万語とか、習熟に10年とか言われる中で、一学期間の講義だけでは圧倒的に不十分なのは明らかでしょう。クラス外でも、またクラスが終わった後も、自分で学習を続ける事が肝要なので、その為のサポートもします。

- ・「技能科目としての英語」「英語力が欲しければ英語の勉強力をつけよ」「英語学習の三つの螺旋構造」「読む書く聴く話す：四技能の総合的養成」などが骨子になります。しかし、毎日の練習時間と練習量の確保が無ければ絶対に上達しません。

- ・僕の海外の大学院についての講義や英語関連の講義の統一テーマは「国際性」です。身につけた英語力と国際感覚を駆使して活躍していただくのが目標なので、ステップゼロの英語で躓（つまず）かないでください。

授業計画と内容

「全体説明」（1,2回の予定：全て授業時間中です。）

第1回目の授業で、日本人・京大生の英語力やそれに合わせた運用力の養成法、更には講義の概要の説明をします。必ず出席して下さい。その後、最初の数回で現段階での英語力を測定するテストをし、グループ分けをして練習します。練習はスピーキングが中心で、一人でしゃべる物と二人で練習する物があります。

「技能科目としての英語」：青谷の若い頃には無かった英語学習の方法論を実習を通じて学びます。

実際の訓練は以下の様になります。（恒常的に改善中です。実例はカッコ内の Web site を見てください。但し、量が膨大ですので、自分で全部見ると言うよりは、サンプリング程度にとどめ、一回目の講義で概要の説明を聞く時の準備程度に留められることをお勧めします。）

A. 独話：短いお題（例：一番辛かったこと）を与えられ、15 秒考えて 45 秒間一人でしゃべります。（http://aoitani.net/TOEFL_Speech/TOEFL_Speaking.doc）

B. 会話：短い話題（例：京大の何を変えたいか）につき、2 分から 3 分でペアで会話をします。（http://aoitani.net/TOEFL_Speech/Conversation_Questions.doc）

C. ディクテーション：普通は英語を聞いて書き留める物ですが、ノーマルスピードの定時ニュース（日本でもある 2 時の 5 分間ニュースとか、そういう類）は、殆どのみなさんの手に負えないので、皆さんが聞き、僕が黒板にディクテーションをします。

D. 意識・略訳・概訳・近似訳の訓練：大学生が日常生活で普通に使う日本語の短文（例：多数決は常に正しいのかどうかは、議長にとって頭の痛い問題である）の意味の概略を 10 秒ほどで、現有戦力の英語力で言い切ります。当然、意味は近似しかできません。流暢さ養成の訓練であって、正確な翻訳の訓練ではないのです。Quick and dirty（質を犠牲にしても速くやること）を旨とした訓練で、やる時には関連した 6 文を 60 秒でやる場合が多いです。

（http://aoitani.net/Q_D_Trans_1.doc http://aoitani.net/Q_D_Trans_2.doc）

E. アメリカの大学生用の作文トピックの利用：トピックそのもの（通常 5 行以内）を reading と listening に用いた後、2 分間日本語で議論をし、2 分間英語で議論をし、それに基づいてあい方に 3 分で自分の意見をまとめて言います。『人は少数の人に影響されて人格形成をすると信じるが、実際には社会全体・人類の歴史全体が人を作るのではないか』とか、ハイレベルの物が多いです。

（http://aoitani.net/GRE_topics.doc）

F. 前回の作文の宿題のトピックについて、つまり既に書いた作文の内容等を思い出しながら、今度は口頭で 2,3 分パートナーと会話をします。

（http://aoitani.net/TOEFL_Speech/TOEFL_Writing_Topics.doc）

成績評価の方法・基準

中間・期末試験は有りませんが、出席だけは非常に重んじます。毎回授業に出席し、宿題をやり、数種の能力測定テスト（成績評価にも関係し、僕にも将来

の京大生にも非常に役立ちます。講義中に行います) を全て受ける事が単位取得の最低条件です。

その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等)

担当教員は、1978 年京大理学部卒。大学院在学中 (一回生の途中) に渡米し、米国に 20 年滞在。十年前に京大に戻り、現在は国際教育プログラム等の担当。多分変人ですが善人です。尚、一部茶髪等、見かけは若そうですが、実は考え方は完全にオジンです。昭和 29 年 (敗戦屈辱の昭和 20 年代) 生まれですから、これは仕方が有りませんね。なにしろ、皆さんのお父さんの年齢なのですから。

「信義」などと言う言葉が出て来ても驚かない様にして下さい。それから「大学は天地の真理を追究する所」(つまり、単なる職業訓練所ではない) というのが僕の基本スタンスです。『小・中・高の学生や一般社会人がやってはいけないことは、当然大学生・大学院生もやってはいけない』ので、無断欠席・遅刻・授業中の私語には本気で怒ります。更に、『恥部も患部も曝 (さら) け出し、敢然とその解決・改善にあたる』主義ですので、自分自身についても日本人全般についても、欠陥でも何でも、事実であればその通りそのまま述べます。当然、個人情報保護法に抵触したりすると駄目ですが、留学経験等々も含めた日本人の国際性の無さを示すデータや事例、京大生も日本人も英語力が世界最低レベルであることを示すデータ・テストスコア

(http://aoitani.net/Eigo_Sekai_Saitei.mhtml)、先進 47 経済圏で最下位の 47 位にランク付けされている日本の大学教育 (研究ではありません) の現状 (<http://aoitani.net/47th.pdf>)、授業料を差し引いても一人頭 133 万円かかる京大生の教育費

(http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/issue/financial_report/documents/2010/financial_2010_d07.pdf 12 ページ)
等は、個人情報にはあたりませんね。自分自身についても、青谷の間違いだらけの英作文の公開

(http://aoitani.net/Essay_Corrections/Masayasu_AOTANI.doc)
など、ちゃんと恥部も幹部も曝け出しています。事実を鋭い目で見つめ、有りの儘に描写するという姿勢は、学者としてはあまりにもあたりまえですが、そう言う真っ直ぐな態度が鼻につく人は、最初から来ないで下さい。

受講定員

30 人

学生の選抜方法

内容説明と意思確認の為の面接で即時決定します。面接を受けない人は登録できません。講義開始前の面接が必須ですので、075 753 2568 (内線 2568) に電話をし、アポイントメントを取って下さい。(面接の詳細説明は 4 月 1 日以降に青

谷研究室の扉に貼り出します。)

履修要件

一回目の授業への出席と、実力測定のためのテストの皆受験が必須です。更に、病気や事故等を除き、講義にすべて出席する事、正当な理由が有っても事前（事後に非ず。事後報告は破門）報告無しには欠席しない事、TOEIC・TOEFLを受けたら結果を報告する事などの条件があります。詳細は授業で説明しますが、一言で言うと『真摯な態度で授業に取り組み、小中高の学生や社会人がやらない事は大学生もしない』に集約されます。たとえば無断欠席なんて、しないのが社会の常識ですし、非常事態でなければ、欠席の際の事前報告はあまりにも当然です。尤も、なかなか出来ない英語、一筋縄ではいかない英語を、やってやってやり倒す気概があれば、後は自然についてくるでしょう。

教科書

授業中の handout（配布物）とネット上の教材のみ。
講義や練習の内容は、一部下記の参考書に基付いていますが、教科書は有りません。

参考書等

青谷正妥（あおたにまさやす）『英語勉強力』（DHC 出版）
あくまでも参考書であって、買う必要は全く有りません。むしろ授業を取れない人が読むべきですね。因みに僕の印税は0%です。本当です。
それから、DHC は例の化粧品の会社ですが、元々は出版や翻訳から始まった会社です。なにしろ、DHC は Da いがく Ho んやく Center（大学翻訳センター）を意味するのですから。これも本当ですよ！

関連 URL

<http://aoitani.net/>

KCJS/SCTI 英語講義聴講制度

～アメリカの学生と学ぶアメリカ式の講義～

京都大学では、KCJS、SCTI 英語講義聴講制度を設けています。KCJS は全米 14 大学からの学生、SCTI はスタンフォード大学からの学生が京都に滞在しながら日本について学んでいます。この聴講制度は、KCJS・SCTI が提供する日本の文化、政治、経済、芸術等についての英語講義に、選抜された京大生が聴講生として参加するものです。聴講といってもアメリカ人学生と同じ予習、課題が課せられ、講義での積極的な発言と議論への参加が求められます。京大の単位としては認められませんが、出席、課題を全うした者には参加証明書が授与されます。英語の聞き取り、ライティング、プレゼンテーション能力を高められるのはもちろん、外から見た日本を学ぶ経験、そして聴講を通して培った人間関係は、将来の留学や国際的な場で活躍するための重要な足がかりとなります。講義が行われるのは、KCJS,SCTI ともに同志社大学今出川キャンパス内です。

KCJS について

● 講義期間および募集時期

秋学期 講義期間：9月～12月 募集：6月

春学期 講義期間：1月～4月 募集：11月

KCJS (Kyoto Consortium for Japanese Studies、京都アメリカ大学コンソーシアム) は 1989 年に京都市内に設立され、日本研究を志す米国の大学生が毎年約 40～50 名が来日している。参加大学は、ボストン大学、ブラウン大学、コロンビア大学、コーネル大学、シカゴ大学、エモリー大学、ハーバード大学、ミシガン大学、ペンシルベニア大学、プリンストン大学、スタンフォード大学、ワシントン大学 (セントルイス校)、イェール大学、バージニア大学。KCJS プログラムの参加学生は 2 年以上の日本語学習経験があり、日本語や日本文化に深い関心を持っている。

これまで提供された講義例は以下の通り。日本政治、日本の近代史、現代史、日本文学、ジェンダー論、日本経済、日本の古典芸能 - 能と狂言、国際外交、日本の宗教、日本の都市建築・建築史、翻訳等。

SCTI について

● 講義期間および募集時期

講義期間：4月～7月 募集：2月

SCTI (Stanford Center for Technology and Innovation、スタンフォード技術革新センター) は米国スタンフォード大学の日本留学プログラムとして 1990 年に誕生。日本との関わりを持つ上で必要となる知識・資質を身につけたアメリカの若い世代の育成を目的としている。参加学生の専攻は工学、自然科学、経済学、政治学、国際関係学等多岐にわたるが、技術系専攻の学生が多いのが特徴。日本語教育にも力を入れており、来日学生は日本語学習経験を有している。

これまで提供された講義例は以下の通り。日本のイノベーション、政治経済学、日本の国際外交、日本の宗教、京都の建築・建築史等。

応募資格 (KCJS、SCTI 共通)

- ・京都大学に在籍する学部生・大学院生
- ・英語能力：TOEFL iBT79 点 (CBT213 点、IELTS も可) 以上の英語能力を有すること
(SCTI は TOEIC830 点以上も可)
- ・履修希望科目についての基礎知識を有すること
- ・日本に関する相当の知識が必要であるため日本での滞在経験が 6 年以上とする
- ・途中で授業を放棄しない者

* 過去の経験者の参加報告書を京大ウェブサイトで閲覧できます。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education/international/program/kcjscti.htm/>

ホーム>教育>留学・国際教育>京大生向けの国際教育プログラム>KCJS/SCTI 講義の聴講

Q&A

Q: 募集要項はどこでもらえますか？どこに申し込みすればいいのでしょうか？

A: 募集要項は募集期間中、留学生課で配布しています。また、京大ウェブサイトからもダウンロードできます。申請書提出先は、国際交流センター内にある留学生課です。

Q: どんな人が応募していますか？

A: 文系、理系どちらも応募できるので、さまざまな学部・研究科からの学生が参加しています。講義内容そのものに関心がある人、英語力を磨きたい人、これから留学をするのでこういった環境に慣れておきたい人、留学を終えてからも英語力を維持したい人、留学はできないけれども、英語講義に参加したい人などが応募されています。

Q: 応募資格に「日本滞在6年以上」となっているのはなぜ？

A: 日本人学生はただ講義に参加するのではなく、日本について学ぶ学生に対して、日本人の視点や経験からの意見を伝えることを期待されています。そのため、外国人、帰国子女は日本に関する十分な知識と経験を持っているといえる、6年以上の日本滞在を資格のひとつとしています。

Q: 費用はかかりますか？

A: 授業料は無料ですが、教科書、課題図書は自己負担となります。

Q: 複数の講義を聴講できますか？

A: 以前は希望者は二科目までの講義を聴講することができましたが、近年は希望者の増加で、一人当たり一科目の講義の聴講とする場合が多くなっています。

Q: 選考基準は？

A: 英語講義を理解できる最低限の英語力 (TOEFL iBT79 点以上) と希望聴講講義に関する専門性と熱意から総合的に選考しています。英語力が高ければそれでいいというわけではなく、講義に積極的に参加して講義内容を充実させる意欲も重視しています。

Q: 講義途中で聴講をキャンセルすることはできますか？

A: できません。数多くの希望者のなかから、京都大学の代表として選ばれるわけですから、いい加減な気持ちではなく、出席はもちろん、与えられた課題をきちんとこなすことが要求されます。京大の講義、ご自分のスケジュールとの兼ね合いを熟考のうえで応募してください。

Q: 参加してみて、たいへんだったことは？

A: 以下、参加報告書からの抜粋です。
「聞いてはいたけれど、毎回のリーディングや、折々に提出を求められるライティングが大変だった。」「5, 6 枚のレポートも、こちらは必死だったが、アメリカ人の学生は少ないほうだと言っていた。」

Q: 参加してよかったと思うことは？

A: 以下、参加報告書からの抜粋です。「最初はついていけなかった英語の聞き取りやディスカッションにも、最後にはついていけるようになって自信がついた。」「課題をこなすのが大変だったが、おかげで読解力や作文力が伸びたことを実感できた。」「アメリカ人の学生と仲良くなり、一緒に食事に行ったり、飲みに行ったりして楽しい時間を過ごせた。」

問い合わせ先

京都大学国際交流センター 河合 淳子 kawai@intl.mbox.media.kyoto-u.ac.jp
京都大学国際部留学生課 上村 健 (Tel:075-753-2561、Fax: 075-753-2562)

京都大学学生交流協定による東アジア短期留学プログラム (スプリングスクール/サマースクール)

京都大学では、中国、香港、台湾、韓国などの東アジアの国々・地域への2週間～1か月程度の短期の留学プログラム（総称「東アジア短期留学プログラム」）の実施を予定しています。このプログラムは学生交流協定に基づいて行われ、受入れ先大学はすべて本学の学生交流協定締結校です。語学研修、特別講座、現地学生との交流、フィールドワーク、現地企業や日系企業見学など多様な内容になっています。

今年度も様々なプログラムが実施される予定ですので、京都大学 HP（下記 URL）や国際交流センター掲示板等で確認して応募してください。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education/international/students3/guide/scholarship/other.htm>

参考：昨年度（平成 22 年度）に実施したプログラム

1. 香港中文大学インターナショナルサマースクール中国語コース
実施時期：8月中の3週間
学費免除枠：8名
2. 中国・浙江大学スプリングスクール
実施時期：3月中の2週間
学費免除枠：10名
3. 香港大学 Summer Institute in the Arts & Humanities
実施時期：6月から8月まで約二ヶ月
学費免除枠：3名
4. 韓国・慶北大学校の夏休み文化研修プログラム
実施時期：8月中の1週間
学費免除枠：3名

問合せ先：京都大学国際交流センター・留学生課

韓 立友 han.liyou.4e@kyoto-u.ac.jp Tel: 075-585-7382

河合 淳子 kawai.junko.5r@kyoto-u.ac.jp

上村 健 Tel: 075-753-2561

裏面には昨年度 2011 年 3 月 6 日から 3 月 20 まで行った浙江大学スプリングスクールの募集案内を例として掲載しています。参考にしてください。

実施された「東アジア短期留学プログラム」の一例

(2011年3月6日～3月20日での中国浙江大学のspringスクール)



2011年浙江大学springスクール開催のご案内 (学費免除)
—京都大学学生交流協定による交換留学プログラム—

【日程】

- 3月6日(日) 浙江大学到着、歓迎会
- 3月7日(月) オリエンテーションと中国語能力テスト、キャンパス見学
- 3月8日(火)～19日(土) 中国語学習、講座、日中学生交流、フィールドワーク
- 3月19日(土) 送別会
- 3月20日(日) 帰国

【詳細】

- 募集人数: 10名
- 募集対象: 京都大学在学学生(院生を含む)
- 宿泊先: 浙江大学玉泉校区国際教育学院留学生楼(寮)
- 費用: 学費免除 その他費用は学生自己負担
- 杭州滞在中に各自にかかる諸費用:
 - 宿泊費: シングルルーム1日70元、70元×14日=980元
 - 食事代: 1日約50元(大学食堂の場合) 50元×14日=700元
 - 教科書代: 150元
- 航空チケット代: 約6万円(関西⇄杭州、全日空NH951、NH952の場合)
- 合計: 約8万円

【申込み】

- 申請書提出先: 国際教育推進教育支援グループ
岡田美紀室 075-753-2543
- 締め切り: 2010年12月28日(火)ただし先着順に採用決定とし、定員に達した時点で締め切ります。
- 本行 問合せ先: 国際交流センター 課 2室
hkyu.han@kai8.oca.kyoto-u.ac.jp

【備考】

- 中国語の学習は、学生の中国語力に応じてクラス分けを行い、原則半日の午前中に行う。場合によっては午後になることもある。
- 杭州萧山空港への送迎は無料
- 1元=約13円(2010年10月現在)

2010年11月30日(火)に説明会をします。
場所: 国際交流センター多目的ホール 時間: 12:10～12:50

2011年浙江大学springスクールスケジュール

Tentative Schedule for 2011 Kyoto University Study-in-China Short-term Program (March 6th -March 19th, 2011)

3月6日(日)	3月7日(月)	3月8日(火)	3月9日(水)	3月10日(木)	3月11日(金)	3月12日(土)
Arrival & Check-in 午前 関西→杭州→学生寮 (空港まで送迎) 午後 キャンパス案内 両替(中国銀行) (浙江大学学生同行)	9:00-10:30 オリエンテーション Orientation 14:00-15:30 講座: 杭州在住日本人による中国生活経験の紹介 Lecture on Experience on living in Hangzhou 17:30 歓迎パーティー Welcome Banquet	9:00-11:30 中国語コース Mandarin Course 13:00～ 見学: 西湖、花港、福井公園および世界遺産の寺院 Sightseeing around the West Lake.	9:00-11:30 中国語コース Mandarin Course 14:00 中国ハイテク企業見学: 中控集団 Industry visit to SUPCON Group Co. Ltd.	9:00-11:30 中国語コース Mandarin Course 13:00～ 見学: 河坊街、中薬(漢方薬)博物館、胡雪岩故居 Visit to He Fang Street, Traditional Chinese Medicine Museum & Former Residence of Hu Xueyan	9:00-11:30 中国語コース Mandarin Course 13:30-15:30 講座: 「今の中国を読む」馬安東教授 ※日本語で行われる	自由参加(実費): 旅行会社による上海の1日見学 One-day Excursion to Shanghai (optional)
自由行動 Free Arrangement	9:00-11:30 中国語コース Mandarin Course 13:30 新キャンパス見学 Zi Jin Gang Campus Tour (new campus)	9:00-11:30 中国語コース Mandarin Course 13:00 日系企業見学 Industry visit to a Japanese Company in Xia'sha	9:00-11:30 中国語コース Mandarin Course 13:30-15:30 講座: 「日中間の社会・文化における共通点と相違点」馬安東教授	9:00-11:30 中国語コース Mandarin Course Afternoon: 午後: 自由行動 Free Arrangement	9:00-11:30 中国語コース Mandarin Course 18:00 送別パーティー Farewell Banquet	自由行動 Free Arrangement 3月20日(日) 杭州→関西 Departure for Osaka